

チアメトキサム (案)

1. 品目名：チアメトキサム (Thiamethoxam)

2. 用途：殺虫剤

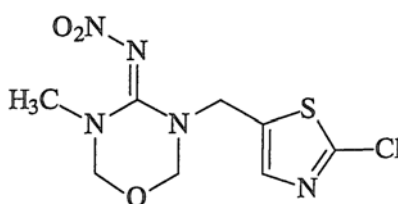
ネオニコチノイド系殺虫剤である。昆虫中枢神経系のニコチン性アセチルコリン受容体に作用を及ぼすと考えられている。

3. 化学名

(*EZ*)-3-(2-chloro-1,3-thiazol-5-ylmethyl)-5-methyl-1,3,5-oxadiazinan-4-ylidene(nitro)amine (IUPAC)

3-[(2-chloro-5-thiazolyl)methyl]tetrahydro-5-methyl-*N*-nitro-4*H*-1,3,5-oxadiazin-4-imine (CAS)

4. 構造式及び物性



分子式 $C_8H_{10}ClN_5O_3S$

分子量 291.7

水溶解度 4.1g/L (25°C)

分配係数 $\log_{10}Pow = -0.13$ (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方は以下のとおり。

作物名、使用時期、チアメトキサムを含む農薬の総使用回数となっているものについては、今回農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

(1) 10%チアメトキサム水溶剤（顆粒水溶剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	
未成熟 とうもろこし	アブラムシ類	3000 倍	100～ 300L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内	
だいず いんげんまめ							3回以内 (は種前の塗沫処理は 1回以内、 は種後は2回以内)	
ばれいしょ				テントウムシダマシ類	2000 倍		25L/10a	収穫14日前 まで
	アブラムシ類	750 倍						
てんさい	テンサイトビハムシ	50～ 200 倍	ペーパーポット 1冊当たり 1L (3L/m ²)	定植前	1回	苗床 灌注	1回	
	カメノコハムシ	50 倍						
	アブラムシ類	100 倍						
	テンサイモグリハナバエ	100～ 200 倍						
だいこん	アブラムシ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	3回以内 (は種前の作条混和は 1回以内、 散布は2回以内)	
キャベツ		3000 倍		セル成型 育苗トレイ (30×60 cm、 使用土壌 約3～4L) 1箱当たり 0.5L	収穫3日前 まで		3回以内	4回以内 (粒剤の処理及び 水溶剤の灌注は 合計1回以内、 水溶剤及び液剤の 散布は合計3回以内)
		100 倍			育苗期後半		1回	灌注
はくさい	3000 倍	100～ 300L/10a	収穫3日前 まで	3回以内	散布	4回以内 (粒剤の処理及び 水溶剤の灌注は合計 1回以内、散布は 3回以内)		

(1) 10%チアメトキサム水溶剤（顆粒水溶剤）（つづき）

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数		
ブロッコリー	アブラムシ類	3000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、 散布は3回以内)		
カリフラワー				収穫7日前まで					
非結球 あぶらな科 葉菜類 (こまつな、ケール、 チンゲンサイを除く)		2000倍		100～300L/10a	収穫3日前 まで		2回以内	2回以内	
こまつな								3回以内 (は種時の作条混和は1回以内、 は種後は2回以内)	
チンゲンサイ								3回以内 (定植時の作条混和は1回以内、 は種後は2回以内)	
レタス								3回以内 (粒剤の処理は1回以内、 散布は2回以内)	
ねぎ	ネギハモグリバエ	1000～2000倍	100～300L/10a		収穫3日前まで	3回以内	散布	4回以内 (は種時及び植付時の作条混和は 合計1回以内、 散布は3回以内)	
	にら	ネギアザミウマ			2000倍			収穫14日前まで	3回以内
アスパラガス				収穫7日前まで					
わけぎ				収穫3日前まで		4回以内 (植付時の作条混和は1回以内、 植付後は3回以内)			
トマト	コナジラミ類	2000倍		100～300L/10a		収穫前日まで		2回以内	4回以内 (育苗期の株元散布及び 定植時の植穴処理は合計 1回以内、散布は3回以内)
ミニトマト									3回以内 (育苗期の株元散布及び 定植時の植穴散布は合計 1回以内、散布は2回以内)
なす	アブラムシ類		3000倍			100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布
	コナジラミ類		2000倍						
	ミナキイロアザミウマ マメハモグリバエ								

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	
ピーマン	ミミキロアザミカ	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (定植時の植穴処理は 1 回以内、 散布は 3 回以内)	
とうがらし類	アブラムシ類 コナカイガラムシ類	3000 倍						
ししとう	マメハモグリバエ							
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	3000 倍						
すいか	ミミキロアザミカ	2000 倍						
食用へちま	アブラムシ類	3000 倍						
にがうり	ワタアブラムシ	2000 倍		収穫 7 日前 まで		3 回以内		
メロン	アブラムシ類	3000 倍	150～ 300L/10a	収穫前日 まで		散布	4 回以内 (定植時の植穴処理は 1 回以内、 散布は 3 回以内)	
ほうれんそう	アブラムシ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 3 日前 まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (は種時の作条混和は 1 回以内、 散布後は 2 回以内)	
オクラ				収穫前日 まで	3 回 以内		3 回以内	
さやいんげん								
えだまめ		3000 倍		収穫 7 日前 まで	2 回 以内		3 回以内 (は種前の塗沫処理は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)	
うこぎ				収穫 3 日前 まで			2 回以内	
エンサイ	2000 倍		収穫 14 日前 まで	3 回 以内	3 回以内			

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
みょうが (花穂)	コナカイガラムシ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布 但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。	3 回以内
みょうが (茎葉)				みょうが(花穂)の 収穫前日まで 但し花穂を収穫しない場合にあって は開花期終了まで			
モロヘイヤ	ネギアザミウマ	収穫7日前 まで					
かんきつ	ゴマドラカミキリ成虫	4000 倍	200～ 700L/10a	収穫14日前 まで		散布	
	アブラムシ類	3000 倍					
	コナカイガラムシ類	2000～ 3000 倍					
	ミカンハモグリガ コアオハナムグリ ケシキスイ類						
	アザミウマ類 ロウムシ類 カメムシ類 ミカンバエ ミカンキジラミ	2000 倍					
りんご	アブラムシ類 ギンモンハモグリガ キンモンホソガ	2000～ 3000 倍		収穫7日前 まで	2 回 以内		2 回以内
	シンクイムシ類	2000 倍					
なし	コナカイガラムシ類 カメムシ類		2000 倍		収穫前日 まで	3 回 以内	
	アブラムシ類	3000 倍					

(1) 10%チアメトキサム水溶剤 (顆粒水溶剤) (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
もも	アブラムシ類	3000 倍	200～ 700L/10a	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
	モモハモグリガ	2000～ 3000 倍					
	シンクイムシ類 ミカンキロアザミウマ カメムシ類	2000 倍					
小粒核果類 (うめを除く)	アブラムシ類	2000～ 3000 倍		収穫7日前 まで	2 回 以内		2 回以内
うめ							
おうとう	カメムシ類	2000 倍		収穫前日 まで	2 回 以内		
	柿トウショウジョウバエ						
いちじく	アザミウマ類	2000～ 3000 倍		収穫7日前 まで	2 回 以内		
ぶどう	コナカイガラムシ類 チャノキロアザミウマ						
		フタテンヒメヨコバイ		2000～ 3000 倍			
かき	アザミウマ類 カメムシ類 コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ	2000 倍	収穫3日前 まで	3 回 以内	3 回以内		
バナナ	バナナツヤゾウムシ					収穫7日前 まで	
マンゴー	アザミウマ類		収穫14日前 まで	2 回 以内			
アセロラ	アブラムシ類		収穫7日前 まで				
グアバ (果実)	バンジロウツノ エグリヒメハマキ						
茶	チャノキロアザミウマ	2000～ 3000 倍	200～ 400L/10a	摘採7日前 まで	1 回	1 回	
	チャノミドリヒメヨコバイ						
	コミカンアブラムシ ツマグロアオカスミカメ						
セージ	コナジラミ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫21日前 まで	3 回 以内	3 回以内	

(2) 0.5%チアメトキサム粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
水稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	穂揃期	1回	散布	4回以内 (移植後は3回以内)
かんしょ	アブラムシ類	6kg/10a	育苗期		株元散布	1回
	コガネムシ類	6~9kg/10a	植付時		作条混和	
さといも	6kg/10a					
ばれいしょ	3~6kg/10a	4回以内 (植付時の作条混和は1回以内、植付後は3回以内)				
こんにゃく	アブラムシ類	6kg/10a	培土時 (但し、出芽前まで)		株元散布	1回
だいこん		4kg/10a	は種時		作条混和	3回以内 (は種前の作条混和は1回以内、散布は2回以内)
キャベツ		セル成型育苗トレイ (30×60 cm、 使用土壌約3~4L) 1箱当り 30g 株当り 1~2g	育苗期 後半		散布	4回以内 (粒剤の処理及び水溶剤 の灌注は合計1回以内、 水溶剤及び液剤の 散布は合計3回以内)
	株当り 1~2g					
	ハイマダラノメイガ	株当り 2g	定植時		植穴処理	
			育苗期 後半		株元散布	
					コナガ	
はくさい	アオムシ	株当り 2g	育苗期 後半		株元散布	4回以内 (粒剤の処理及び水溶剤 の灌注は合計1回以内、 散布は3回以内)
	コナガ	培土1L当たり15g	は種前	床土混和		
		株当り 1~2g	育苗期 後半	株元散布		
こまつな	アブラムシ類	6kg/10a	は種時	作条混和	3回以内 (は種時の作条混和は1回以内、は種後は2回以内)	

(2) 0.5%チアメトキサム粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	
チンゲンサイ	アブラムシ類 ハモグリバエ類	6kg/10a	定植時	1回	作条混和	3回以内 (定植時の作条混和は1回以内、散布は2回以内)	
ブロッコリー	アオムシ コナガ ハイマダラノメイガ	株当たり 2g	育苗期 後半		株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、散布は3回以内)	
カリフラワー	アブラムシ類	株当たり 0.5g				は種前	床土混和
レタス	ナモグリバエ		培土 1L 当たり 15g		株元散布		
非結球レタス	アブラムシ類	株当たり 0.5g	育苗期 後半		床土混和	1回	
	ナモグリバエ		は種前				
ねぎ	ネギアザミウマ	6kg/10a	は種時		作条混和	4回以内 (は種時及び植付時の作条混和は合計1回以内、散布は3回以内)	
	ネギハモグリバエ	6~9kg/10a	植付時				
わけぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	6kg/10a			4回以内 (植付時の作条混和は1回以内、植付後は3回以内)		
あさつき						1回	
セロリ	ナモグリバエ	株当たり 2g	鉢上時			2回以内	土壌混和
			定植時		植穴処理		
トマト	ハモグリバエ類	株当たり 1~2g	育苗期 後半	1回	株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は3回以内)	
	コナジラミ類	株当たり 1g					
ミニトマト	ハモグリバエ類	株当たり 1~2g	定植時		植穴処理	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は2回以内)	

(2) 0.5%チアメトキサム粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
なす	ミナミキイロアザミウマ マメハモグリバエ コナジラミ類	株当たり 1g	定植時	1回	植穴処理	4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の植穴処 理は合計1回以内、 散布は3回以内)
	アブラムシ類		育苗期 後半		株元散布	
ピーマン	ミカンキイロアザミウマ	株当たり 2g	定植時		植穴処理	
とうがらし類	アブラムシ類	株当たり 1g				
きゅうり	コナジラミ類 トマトハモグリバエ					
	すいか	アブラムシ類				株当たり 2g
メロン	ハモグリバエ類 アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	株当たり 1g				
	ほうれんそう	アブラムシ類	6kg/10a	は種時	作条混和	3回以内 (は種時の作条混和は 1回以内、 散布は2回以内)
れんこん	クワイクビレアブラムシ		収穫14日前 まで	3回以内	湛水散布	3回以内
いちご	アブラムシ類	株当たり 1g	定植時	2回以内	植穴散布	2回以内

(3) 2.0%チアメトキサム粒剤

作物名	適用病害虫名	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5L) 1箱当たり 50 g	移植前 3日 ～移植当日	1回	育苗箱中の 苗の上から 均一に散布する	4回以内 (移植後は 3回以内)

(4) 21.4%チアメトキサム水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類	5000倍	100~150 L/10a	収穫21日 前まで	2回以内	散布	4回以内 (移植後は 3回以内)

(5) 30.0%チアメトキサム水和剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数
だいず	アブラムシ類 タネバエ	乾燥種子 1kg 当り	は種前	1回	塗沫処理	3回以内 (は種前の塗沫処理は 1回以内、 は種後は2回以内)
えだまめ	ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ					
いんげんまめ	アブラムシ類	原液 6mL				1回
あずき	タネバエ					

(6) 10.0%チアメトキサム・5%ルフェヌロン水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	ルフェヌロンを含む農薬の総使用回数
みかん	チャノキイロアザミウマ アゲハ類 ミカンハモグリガ ミカンサビダニ	2000~ 3000倍	200~700 L/10a	収穫14日 前まで	3回 以内	散布	3回以内	3回以内
	ゴマダラカミキリ成虫	2000倍						
かんきつ (みかんを 除く)	チャノキイロアザミウマ アゲハ類 ミカンハモグリガ ミカンサビダニ		2000倍			1回		1回
りんご	クロコナカイガラムシ ハマキムシ類 シンクイムシ類	2000~ 3000倍			2回 以内		2回以内	3回以内
	ギンモンハモグリガ キンモンホソガ アブラムシ類							
茶	チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ ヨモギエダシャク チャハマキ チャノコカクモンハマキ	2000倍	200~400 L/10a	摘採7日 前まで	1回		1回	1回

(7) 0.005%チアメトキサム液剤

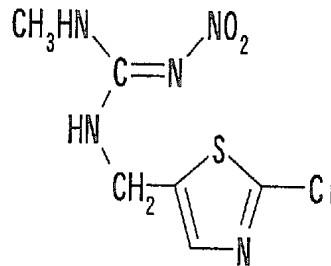
作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	チアメトキサムを 含む農薬の 総使用回数	
きゅうり	アブラムシ類	原液	収穫前日 まで	3回以内	散布	4回以内 (定植前の植穴処理は 1回以内、 散布は2回以内)	
なす	コナジラミ類					4回以内 (育苗期の株元散布及び 定植時の植穴処理は 合計1回以内、 散布は3回以内)	
トマト	アブラムシ類					4回以内 (定植前の植穴処理は 1回以内、 散布は3回以内)	
ピーマン						4回以内 (粒剤の処理及び 水溶剤の灌注は 合計1回以内、 水溶剤及び液剤の散布は 合計3回以内)	
キャベツ	アブラムシ類		収穫3日前 まで				
かんきつ	コナカイガラムシ類		収穫14日前 まで				3回以内
うめ	アブラムシ類		収穫7日前 まで	2回以内			2回以内

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・ チアメトキサム
- ・ (E)-1-(2-クロロ-1,3-チアゾール-5-イルメチル)-3-メチル-2-ニトログアニジン (代謝物 CGA322704 (以下、クロチアニジン))



【クロチアニジン】

② 分析法の概要

含水アセトンで抽出、アセトンを留去後顆粒状多孔性ケイソウ土カラムおよびカートリッジカラムで精製し、高速クロマトグラフで定量する。

定量限界 チアメトキサム : 0.005~0.2 ppm
クロチアニジン : 0.005~0.2 ppm

(2) 作物残留試験結果

① 水稲

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）したところ、散布後125、146日の最大残留量^{注1)}は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm
クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

水稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）したところ、散布後125、146日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.04、<0.04 ppm
クロチアニジン : <0.04、<0.04 ppm

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（1.5kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、施用後20、21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。^{注2)}

チアメトキサム：0.027、0.024 ppm

クロチアニジン：0.029、0.011 ppm

水稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50g/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（1.5 kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、施用後20、21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.06、0.08 ppm

クロチアニジン：<0.04、<0.04 ppm

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布したところ、施用後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.045、0.078 ppm

クロチアニジン：0.026、0.078 ppm

水稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布したところ、施用後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.028、0.027 ppm

クロチアニジン：<0.04、0.04 ppm

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（6kg/10a）及び21%フロアブルの5000倍希釈液を2回散布したところ、施用後21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.045、0.070 ppm

クロチアニジン：0.054、0.046 ppm

水稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処理（50kg/育苗箱）、0.5%粒剤を1回散布（6 kg/10a）及び21%フロアブルの5000倍希釈液を2回散布したところ、施用後21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.50、0.26 ppm

クロチアニジン：0.04、0.02 ppm

水稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、2%粒剤を1回育苗箱処

理 (50g/育苗箱) したところ、散布後 122、134 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、0.008 ppm

水稻 (稲わら) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を 1 回育苗箱処理 (50g/育苗箱) したところ、散布後 122、134 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.04、0.06 ppm

クロチアニジン : <0.02、<0.02 ppm

水稻 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を 1 回育苗箱処理 (50g/育苗箱)、0.5%粒剤を 1 回散布 (1.5kg/10a) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液を 1 回散布 (150L/10a) したところ、施用後 7~28 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.096、0.086 ppm

クロチアニジン : 0.064、0.076 ppm

水稻 (稲わら) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を 1 回育苗箱処理 (50g/育苗箱)、0.5%粒剤を 1 回散布 (1.5 kg/10a) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液を 1 回散布 (150L/10a) したところ、施用後 7~28 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 2.98、1.10 ppm

クロチアニジン : 0.11、0.08 ppm

②とうもろこし

未成熟とうもろこし (生食用子実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液を 2 回散布 (200L/10a、300L/10a) したところ、散布後 7~42 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

③大豆

大豆 (乾燥子実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液を 2 回散布 (150L/10a、300L/10a) したところ、散布後 6~21 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

大豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブル（12mL/1kg 種子）を1回散布、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回散布及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a、300L/10a）を2回散布したところ、施用後6～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

④小豆

小豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブル（12mL/1kg 種子）を1回塗沫処理したところ、施用後126、143日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

小豆（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブル（12mL/1kg 種子）1回使用及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（150L/10a、300L/10a）を2回散布したところ、施用後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.014、0.022 ppm

クロチアニジン：0.008、0.018 ppm

⑤いんげん

いんげん（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を3回散布（300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.012、<0.005 ppm

クロチアニジン：0.049、<0.005 ppm

いんげん（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブル（12mL/1kg 種子）を1回使用、0.5%粒剤（6kg/10a）を1回使用及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、175-200L/10a）を3回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.01、<0.01 ppm

クロチアニジン：0.01、<0.01 ppm

⑥ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回

作条土壤混和 (9 kg/10a) 及び 10% 顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (200L/10a) を 3 回散布したところ、施用後 14~28 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : <0.005、0.100 ppm

クロチアニジン : <0.005、0.020 ppm

ばれいしょ (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤 (6kg/10a) を 1 回作条土壤混和、および 10% 顆粒水溶剤の 750 倍希釈液 (25L/10a) を 3 回散布したところ、施用後 14~28 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.02、<0.01 ppm

クロチアニジン : 0.02、<0.01 ppm

⑦ さといも

さといも (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤 (6kg/10a) を 2 回植穴処理したところ、散布後 30~45 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.14、0.039 ppm

クロチアニジン : <0.01、<0.01 ppm

さといも (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10% 顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (250L/10a) を 2 回散布したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.022、<0.01 ppm

クロチアニジン : <0.01、<0.01 ppm

さといも (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤 (6kg/10a) を 1 回植穴処理及び 10% 顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (150L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 7~21 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.038、<0.01 ppm

クロチアニジン : <0.01、<0.01 ppm

⑧ かんしょ

かんしょ (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤を 1 回作条土壤混和 (9kg/10a) したところ、散布後 112、117 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

かんしょ (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤 (9kg/10a、

6kg/10a) を作条土壌混和処理を 1 回及び株元土壌混和処理を 1 回行ったところ、施用後 21~42 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.012、0.006 ppm

クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

⑨こんにゃくいも

こんにゃくいも（塊茎）を用いた作物残留試験（2 例）において、0.5%粒剤を 1 回株元土壌混和（6kg/10a）したところ、散布後 132~159 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.01、0.02 ppm

クロチアニジン : <0.01、<0.01 ppm

⑩てんさい

てんさい（根部）を用いた作物残留試験（2 例）において、10%顆粒水溶剤の 50 倍希釈液を 1 回灌注処理（1L/冊）したところ、処理後 150~170 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

⑪だいこん

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2 例）において、70%水和剤を 1 回種子粉衣（4.3g/1000 種子）したところ、粉衣後 66~80 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.009、0.012 ppm

クロチアニジン : <0.005、0.006 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2 例）において、70%水和剤を 1 回（種子粉衣 4.3g/1000 種子）、0.5%粒剤を 1 回（作条処理 6 kg/10a）及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液（150L/10a）を 2 回散布したところ、施用後 7~21 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 1.320、0.247 ppm

クロチアニジン : 0.254、0.137 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2 例）において、70%水和剤を 1 回種子粉衣（4.3g/1000 種子）したところ、粉衣後 66~80 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.006、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣 4.3g/1000 種子）、0.5%粒剤を1回（作条処理 6 kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.011、0.028 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

だいこん（葉部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣 2.86g/1000 種子）、0.5%粒剤を1回（播溝処理 6 kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.358、0.378 ppm

クロチアニジン：0.136、0.122 ppm

だいこん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、70%水和剤を1回（種子粉衣 2.86g/1000 種子）、0.5%粒剤を1回（播溝処理 6 kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を2回散布したところ、施用後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.015、0.010 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑫はくさい

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後48～81日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.016、0.010 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理 2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（200L/10a、120-200L/10a）を3回散布したところ、施用後3～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.072、0.354 ppm

クロチアニジン：0.007、0.020 ppm

⑬キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植

穴処理 2g/株) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液を 3 回散布 (200L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.310、0.078 ppm

クロチアニジン : 0.028、<0.005 ppm

⑭こまつな

こまつな (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液を 2 回散布 (200-700L/10a、300L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.92、2.34 ppm

クロチアニジン : 0.10、0.360 ppm

こまつな (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回 (播溝処理 6kg/10a) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液を 2 回散布 (200-700L/10a、300L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 1.58、2.10 ppm

クロチアニジン : 0.14、0.40 ppm

⑮みずな

みずな (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 1 回 (播種時作条処理 6kg/10a) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (300L/10a、185.2L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 3 ~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.93、1.18 ppm

クロチアニジン : 0.08、0.18 ppm

⑯チンゲンサイ

チンゲンサイ (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を培土床土混和 1 回 (15g/1L)、作条処理 1 回 (6kg/10a) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液 (200L/10a、220-250L/10a) を 2 回散布したところ、施用後 3 ~14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.78、2.82 ppm

クロチアニジン : 0.09、0.32 ppm

⑰ブロッコリー

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後56～65日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.018、0.060 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈（300L/10a）を3回散布したところ、施用後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.825、0.359 ppm

クロチアニジン：0.086、0.019 ppm

⑱カリフラワー

カリフラワー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a）を4回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.128、0.055 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

⑲レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、300L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.290、0.614 ppm

クロチアニジン：0.015、0.024 ppm

⑳サラダ菜

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）したところ、処理後42～70日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.40、1.36 ppm

クロチアニジン：<0.05、<0.05 ppm

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。ただし、これらの試験は適用範囲内で行

われていない。

チアメトキサム：7.81、9.87 ppm

クロチアニジン：0.10、0.09 ppm

②①リーフレタス

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）したところ、処理後61～73日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.28、<0.05 ppm

クロチアニジン：<0.05、<0.05 ppm

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（植穴処理1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a）を3回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：7.34、3.14 ppm

クロチアニジン：0.20、0.07 ppm

②②ねぎ

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条処理（9kg/10a）したところ、処理後69～131日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.094、0.078 ppm

クロチアニジン：0.022、0.022 ppm

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（作条処理9kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の1000倍希釈液（200L/10a）を3回散布したところ、施用後3～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.566、0.557 ppm

クロチアニジン：0.059、0.076 ppm

②③にら

にら（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回（作条処理6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、230L/10a）を3回散布したところ、施用後14、21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.74、0.15 ppm

クロチアニジン：0.19、0.42 ppm

にら（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を1回（作条

処理 6kg/10a) 及び 10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液(200L/10a、230L/10a)を 3 回散布したところ、施用後 14 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.38 ppm

クロチアニジン : 0.67 ppm

④わけぎ

わけぎ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回作条処理(9kg/10a)したところ、処理後23~77日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.05、0.61 ppm

クロチアニジン : <0.05、0.06 ppm

わけぎ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回作条処理(9kg/10a)、1回株元処理(9kg/10a)、および10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(200L/10a、300L/10a)を3回散布したところ、施用後3~14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 1.28、3.96 ppm

クロチアニジン : 0.08、0.21 ppm

⑤アスパラガス

アスパラガス(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(300L/10a)を3回散布したところ、散布後7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン : <0.005、<0.005 ppm

⑥セロリ

セロリ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回株元処理(2g/10a)及び1回植穴処理(2g/10a)したところ、処理後75~112日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : <0.1、0.30 ppm

クロチアニジン : <0.1、<0.1 ppm

⑦トマト

トマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を1回植穴処理(2g/株)したところ、処理後44日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.008 ppm

クロチアニジン : <0.005 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（200L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.104 ppm

クロチアニジン：0.018 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.077 ppm

クロチアニジン：0.010 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.154 ppm

クロチアニジン：0.024 ppm

トマト（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.156 ppm

クロチアニジン：0.038 ppm

㊸ ミニトマト

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後72、60日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.06、<0.02 ppm

クロチアニジン：0.02、<0.02 ppm

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300-360L/10a、350L/10a）を1回散布したところ、施用後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.44、0.08 ppm

クロチアニジン：0.10、0.08 ppm

ミニトマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300-360L/10a、350L/10a）を2回散布したところ、施用後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.79、0.17 ppm

クロチアニジン：0.16、0.19 ppm

⑳ピーマン

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後42、82日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.023、<0.005 ppm

クロチアニジン：0.008、<0.005 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）、および10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（180L/10a、300L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.200、0.267 ppm

クロチアニジン：0.016、0.016 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）および10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（180L/10a、300L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.411、0.310 ppm

クロチアニジン：0.044、0.034 ppm

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）、および10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（180L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.439、0.402 ppm

クロチアニジン：0.032、0.056 ppm

㉑なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後97、108日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.005、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（200L/10a、250L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.069、0.040 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、250L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.121、0.054 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、250L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.106、0.055 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

③ししとう

ししとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（150L/10a、250L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.53、0.60 ppm

クロチアニジン：0.08、0.05 ppm

③とうがらし

とうがらし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、100-150L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.76、0.34 ppm

クロチアニジン：0.16、0.03 ppm

③きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）したところ、処理後43、34日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を2回散布（250L/10a、200L/10a）したところ、散布後1日の最大

残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.076、0.104 ppm

クロチアニジン：0.005、0.006 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、200L/10a）を2回散布したところ、施用後1日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.172、0.162 ppm

クロチアニジン：0.010、0.008 ppm

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（1g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、200L/10a）を3回散布したところ、施用後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.141、0.132 ppm

クロチアニジン：0.008、0.008 ppm

③④ すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（176.5-200L/10a、76.1-272.4L/10a）を3回散布したところ、処理後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.017、0.046 ppm

クロチアニジン：<0.005、0.007 ppm

③⑤ メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）したところ、処理後83、87日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.007 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.049、0.029 ppm

クロチアニジン：0.006、<0.005 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、300L/10a）を3回散布したところ、施用後1～35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.023、0.064 ppm

クロチアニジン：0.008、0.014 ppm

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.010 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

③⑥にがうり

にがうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（100-200L/10a、202L/10a）を3回散布したところ、施用後7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.17、0.06 ppm

クロチアニジン：<0.01、0.01 ppm

③⑦食用へちま

食用へちま（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、180L/10a）を3回散布したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.11、0.09 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

③⑧えだまめ

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、400L/10a）を2回散布したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.061、0.025 ppm

クロチアニジン：0.020、0.020 ppm

えだまめ（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、30%フロアブルを1回種子粉衣（12mL/kg）、0.5%粒剤を1回株元処理（6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a、400L/10a）を2回散布したところ、施用後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.090、0.025 ppm

クロチアニジン：0.028、0.019 ppm

③⑨未成熟いんげん

未成熟いんげん（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液（300L/10a、150L/10a）を3回散布したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.071、0.053 ppm

クロチアニジン：0.074、0.118 ppm

④⑩ほうれんそう

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a、150L/10a）を2回散布したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.26、2.62 ppm

クロチアニジン：0.68、0.75 ppm

ほうれんそう（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回株元処理（6kg/10a）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200、300L/10a、250L/10a）を2回散布したところ、施用後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.96、4.02 ppm

クロチアニジン：0.58、1.20 ppm

④⑪オクラ

オクラ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150-210L/10a、200L/10a）を3回散布したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.30、0.21 ppm

クロチアニジン：<0.01、0.01 ppm

④⑫れんこん

れんこん（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2回湛水処理（6kg/10a）したところ、処理後14～35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

れんこん（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を3回湛水処理（6kg/10a）したところ、処理後14～35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.006、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

④③ うこぎ

うこぎ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の3000倍希釈液を2回散布（150L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.4、<0.2 ppm

クロチアニジン：<0.2、<0.2 ppm

④④ エンサイ

エンサイ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a）を3回散布したところ、散布後14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.07、0.42 ppm

クロチアニジン：<0.02、0.04 ppm

④⑤ みょうが

みょうが（花穂）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a）を3回散布したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：<0.02、<0.02 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

④⑥ モロヘイヤ

モロヘイヤ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200、206、211 L/10a、200L/10a）を3回散布したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.66、0.36 ppm

クロチアニジン：0.43、0.34 ppm

④⑦ 温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.040、0.008 ppm

クロチアニジン：0.013、<0.005 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を2回散布したところ、散布後21、28日の最大残留

量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.018、<0.005 ppm

クロチアニジン：0.007、<0.005 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.65、0.74 ppm

クロチアニジン：0.28、0.12 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を2回散布(500L/10a)したところ、散布後21、28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.47、0.58 ppm

クロチアニジン：0.24、0.12 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液を3回散布(500L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.08 ppm

クロチアニジン：0.014 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(1000L/10a)を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.094 ppm

クロチアニジン：0.022 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.99 ppm

クロチアニジン：0.51 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(1000L/10a)を3回散布したところ、散布後14~28日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム：1.12 ppm

クロチアニジン：0.47 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14～35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.030 ppm

クロチアニジン：0.008 ppm

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液(1000L/10a)を3回散布したところ、散布後14～35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.050 ppm

クロチアニジン：0.011 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14～35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.00 ppm

クロチアニジン：0.30 ppm

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液(1000L/10a)を3回散布したところ、散布後14～35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.36 ppm

クロチアニジン：0.36 ppm

④ なつみかん

なつみかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14～64日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.024、0.018 ppm

クロチアニジン：0.010、0.008 ppm

なつみかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を2回散布したところ、散布後28～64日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.006、0.008 ppm

クロチアニジン：0.005、<0.005 ppm

なつみかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤

の 2000 倍希釈液(500L/10a)を 3 回散布したところ、散布後 14~64 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.38、0.55 ppm

クロチアニジン : 0.14、0.13 ppm

なつみかん (果皮) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液(500L/10a)を 2 回散布したところ、散布後 28~64 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.20、0.20 ppm

クロチアニジン : 0.04、0.08 ppm

なつみかん (全果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液(500L/10a)を 3 回散布したところ、散布後 14~64 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.1、0.14 ppm

クロチアニジン : 0.04、0.04 ppm

なつみかん (全果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液(500L/10a)を 2 回散布したところ、散布後 28~64 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.06、0.07 ppm

クロチアニジン : 0.02、0.02 ppm

なつみかん (果実全体) を用いた作物残留試験 (2 例) において、10%顆粒水和剤の 2000 倍希釈液(1224L/10a、600L/10a)を 3 回散布したところ、散布後 14~45 日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

チアメトキサム : 0.48、0.22 ppm

クロチアニジン : 0.03、0.03 ppm

⑨すだち

すだち (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、10%顆粒水溶剤の 2000 倍希釈液(500L/10a)を 3 回散布したところ、散布後 14~42 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム : 0.040 ppm

クロチアニジン : 0.038 ppm

すだち (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、10%顆粒水和剤の 2000 倍希釈液を 3 回散布(500L/10a)したところ、散布後 14~45 日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.13 ppm

クロチアニジン：0.06 ppm

⑤⑩かぼす

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.058 ppm

クロチアニジン：0.010 ppm

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液(640L/10a)を3回散布したところ、散布後14～45日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.05 ppm

クロチアニジン：0.02 ppm

⑤⑪ゆず

ゆず（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を3回散布したところ、散布後14～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.097 ppm

クロチアニジン：0.063 ppm

⑤⑫りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a、700L/10a)を2回散布したところ、散布後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.064、0.050 ppm

クロチアニジン：0.006、0.010 ppm

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液(500L/10a、700L/10a)を2回散布したところ、散布後7～35日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.092、0.044 ppm

クロチアニジン：0.008、<0.005 ppm

⑤⑬日本なし

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(400L/10a)を3回散布したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.045、0.018 ppm

クロチアニジン：0.016、0.011 ppm

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(400L/10a)を4回散布したところ、散布後12、19日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.039 ppm

クロチアニジン：0.016 ppm

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(300L/10a、400L/10a)を3回散布したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.32、0.14 ppm

クロチアニジン：<0.02、0.04 ppm

④もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(400L/10a、350L/10a)を3回散布したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.008、0.059 ppm

クロチアニジン：0.046、0.080 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(400L/10a、350L/10a)を3回散布したところ、散布後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.10、0.23 ppm

クロチアニジン：0.15、0.26 ppm

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回地表表面処理(200g/樹)したところ、散布後30日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.02、<0.02 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回地表表面処理(200g/樹)したところ、散布後30日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：<0.1、<0.1 ppm

クロチアニジン：<0.1、<0.1 ppm

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a、400L/10a)を3回散布したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.12、0.14 ppm

クロチアニジン：0.08、0.12 ppm

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a、400L/10a)を3回散布したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：2.64、1.90 ppm

クロチアニジン：0.53、0.61 ppm

⑤すもも

すもも（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(300L/10a、500L/10a)を3回散布したところ、散布後7～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.03、<0.02 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

⑥うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(600L/10a、400L/10a)を2回散布したところ、散布後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.089、1.080 ppm

クロチアニジン：0.117、0.242 ppm

⑦おうとう

おうとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液(500L/10a)を2回散布したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：1.36、1.62 ppm

クロチアニジン：0.12、0.139 ppm

⑧いちご

いちご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回株元処理(2g/株)したところ、処理後92～139日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.014、<0.005 ppm

クロチアニジン：<0.005、<0.005 ppm

いちご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回株元散布（2g/株）、1回植穴処理（2g/株）及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（250L/10a、200L/10a）を2回散布したところ、施用後7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.620、0.266 ppm

クロチアニジン：0.010、0.007 ppm

⑤9 ぶどう

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（300L/10a、500L/10a）を2回散布したところ、処理後7～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.540、0.943 ppm

クロチアニジン：0.122、0.053 ppm

⑥0 かき

かき（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（500L/10a）を3回散布したところ、処理後3～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.320、0.164 ppm

クロチアニジン：0.012、0.019 ppm

⑥1 バナナ

バナナ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a）を3回散布したところ、処理後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.19、0.28 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

⑥2 グアバ

グアバ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（313L/10a、200L/10a）を2回散布したところ、処理後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.03、0.02 ppm

クロチアニジン：<0.02、<0.02 ppm

⑥3 マンゴー

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（167L/10a、300L/10a）を2回散布したところ、処理後14～28日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.03、0.02 ppm

クロチアニジン：0.03、0.04 ppm

④いちじく

いちじく（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（330L/10a、500L/10a）を2回散布したところ、処理後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.56、0.43 ppm

クロチアニジン：0.12、<0.1 ppm

⑤アセロラ

アセロラ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（165L/10a、556L/10a）を2回散布したところ、処理後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.06、0.22 ppm

クロチアニジン：<0.04、0.09 ppm

⑥茶

茶（荒茶）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a）を1回散布したところ、処理後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：7.13、2.28 ppm

クロチアニジン：0.25、0.07 ppm

茶（浸出液）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a）を1回散布したところ、処理後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：6.08、1.54 ppm

クロチアニジン：0.23、0.06 ppm

茶（荒茶）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液（200L/10a）を1回散布したところ、処理後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：9.60、3.23 ppm

クロチアニジン：0.17、0.09 ppm

茶（浸出液）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水和剤の2000倍希釈液（200L/10a）を1回散布したところ、処理後7～21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：8.40、2.81 ppm

クロチアニジン：0.15、0.08 ppm

⑥7 セージ

セージ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（200L/10a）を3回散布したところ、処理後21日の最大残留量は以下のとおりであった。

チアメトキサム：0.47、0.54 ppm

クロチアニジン：0.12、0.06 ppm

⑥8 あさつき

あさつき（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条処理（9kg/10a）したところ、処理後23～60日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：0.31、0.08 ppm

クロチアニジン：0.05、<0.05 ppm

あさつき（可食部）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回作条処理（9kg/10a）、1回株元処理（9kg/10a）、及び10%顆粒水溶剤の2000倍希釈液（150L/10a）を3回散布したところ、処理後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は規定範囲内で行われていない。

チアメトキサム：2.26、0.88 ppm

クロチアニジン：0.18、0.05 ppm

これらの試験結果の概要については、別紙1-1、海外で実施された作物残留試験成績の結果の概要については、別紙1-2を参照。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

注2) 適用範囲内で実施されていない作物残留試験については、適用範囲内で実施されていない条件を斜体で示した。

7. 乳牛における残留試験

乳牛に対して0、2、6、20ppmの飼料中濃度に相当する量のチアメトキサムを含有するゼラチンカプセルを28-30日間にわたり摂食させ、牛乳、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓に含まれるチアメトキサム及びクロチアニジン含量を測定した。また、牛乳については、投与開始後0、1、3、7、14、21、26日目に搾乳したものを測定した（定量限界：チアメトキサム0.005ppm、クロチアニジン0.005ppm）。筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓については、投与開始後、28、29、30日目に採取したものを測定した（定量限界：チアメトキサム0.01ppm、クロチアニジン0.01ppm）。結果については表1参照。

上記の結果に関連して、米国では、最大理論的飼料由来負荷（MTDB）^{注）}は肉牛 0.77ppm、乳牛 0.98ppm 及び豚 0.088ppm と評価している。

表 1. 牛乳及び各組織中の最大残留（ppm）

	2ppm 投与群		6ppm 投与群		20ppm 投与群	
	チアメトキサム	クロチアニジン	チアメトキサム	クロチアニジン	チアメトキサム	クロチアニジン
筋肉	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	0.06	<0.01
脂肪	-	-	-	-	<0.01	<0.01
肝臓	<0.01	0.049	<0.01	0.139	<0.01	0.384
腎臓	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.04	<0.01
牛乳	0.01	0.006	0.05	0.02	0.17	0.07

注）最大理論的飼料由来負荷（Maximum Theoretical Dietary Burden：MTDB）：飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量。飼料中残留濃度として表示される。

（参考：Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs）

8. 産卵鶏における残留試験

産卵鶏に対してチアメトキサム 0、0.2、0.6、2、10ppm 含有する飼料を 28 日間にわたり自由に摂取させ、投与終了後 20-24 時間後の筋肉、皮膚、脂肪、肝臓に含まれるチアメトキサム、クロチアニジン及び代謝物 CGA-265307 を測定した。また、鶏卵についても投与開始後 1、3、7、14、21、28 日に採卵しチアメトキサム、クロチアニジン及び代謝物 CGA-265307 について測定した（定量限界：0.01ppm）。その結果、10ppm 投与群の鶏卵から、クロチアニジンが 0.01ppm（採卵日 28 日目）、代謝物 CGA-265307 が 0.01-0.04ppm（採卵日 3-28 日）検出されたが、その他についてはいずれも定量限界未満であった。

上記の結果に関連して、米国では MTDB を 0.232ppm と評価している。また、鶏卵、鶏の脂肪及び筋肉に対して基準値を設定する必要はないと評価している。

9. ADI の評価

食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 24 条第 1 項第 1 号の規定に基づき、平成 16 年 8 月 3 日付け厚生労働省発食安第 0803001 号及び同法第 24 条第 2 項の規定に基づき、平成 18 年 7 月 18 日付け厚生労働省発食安第 0718002 号により食品安全委員会あて意見を求めたチアメトキサムに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：1.84 mg/kg 体重/day

(動物種) ラット

(投与方法) 混餌

(試験の種類) 繁殖試験

(期間) 2世代

安全係数：100

ADI : 0.018 mg/kg 体重/day

10. 諸外国における状況

JMPR における毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。

米国、カナダ、欧州連合 (EU)、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国において、とうもろこし、ぶどう等に、カナダにおいて鶏卵、乳等に、EUにおいてアプリコット、にんじん等に、オーストラリアにおいて、かんきつ等に、ニュージーランドにおいてキウイ等に基準値が設定されている。

11. 基準値案

(1) 残留の規制対象

チアメトキサム本体

代謝物であるクロチアニジンについては、クロチアニジンとして農薬登録がなされていることから、本剤由来のクロチアニジンの残留も含めて、クロチアニジンとしての基準値を別途設定しているところである。今回、本剤の基準値の見直しに伴い、クロチアニジンの基準値についても同時に検討することとしている。

なお、米国等の基準にあっては、チアメトキサムの基準の対象として、チアメトキサムとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和としているが、食品衛生法上はチアメトキサムの基準はチアメトキサムのみを対象とすることとし、クロチアニジンの基準値の対象を、クロチアニジンとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和とする。

また、食品安全委員会による食品健康影響評価においては、暴露評価対象物質としてチアメトキサムが設定されている。

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のチアメトキサムが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量(推定1日摂取量(EDI))のADIに

対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙 3 参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。

	EDI / ADI (%) ^{注)}
国民平均	28.5
幼小児 (1~6 歳)	48.8
妊婦	22.0
高齢者 (65 歳以上)	31.2

注) 作物残留試験成績等がある食品については EDI 試算、それ以外の食品については TMDI 試算を行った。

- (4) 本剤については、平成 17 年 11 月 29 日付け厚生労働省告示第 499 号により、食品一般の成分規格 7 に食品に残留する量の限度 (暫定基準) が定められているが、今般、残留基準の見直しを行うことに伴い、暫定基準は削除される。

チアメトキサム作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
水稻 (玄米)	2	2%粒剤	育苗箱処理 50g/育苗箱	1回	125日	圃場A:<0.005/<0.005
					146日	圃場B:<0.005/<0.005
水稻 (稲わら)	2	2%粒剤	育苗箱処理 50g/育苗箱	1回	125日	圃場A:<0.04/<0.04
					146日	圃場B:<0.04/<0.04
水稻 (玄米)	2	2%粒剤+0.5%粒 剤+10%顆粒水 溶剤	育苗箱処理50g/育苗箱+ 1.5kg/10a散布+2000倍散 布150L/10a	1+1+1回	20日	圃場A:0.027/0.029 (#)
					21日	圃場B:0.024/0.011 (#)
水稻 (稲わら)	2	2%粒剤+0.5%粒 剤+10%顆粒水 溶剤	育苗箱処理50g/育苗箱+ 1.5kg/10a散布+2000倍散 布150L/10a	1+1+1回	20日	圃場A:0.06/<0.04 (#)
					21日	圃場B:0.08/<0.04 (#)
水稻 (玄米)	2	2%粒剤+10%顆 粒水溶剤	育苗箱処理50g/育苗箱 +2000倍散布150L/10a	1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.045/0.026*(#3回、21日) (#)
					6, 13, 20日	圃場B:0.077*/0.078*(#3回、13日) (#)
水稻 (稲わら)	2	2%粒剤+10%顆 粒水溶剤	育苗箱処理50g/育苗箱 +2000倍散布150L/10a	1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.28/<0.04 (#)
					6, 13, 20日	圃場B:0.027/0.04 (#)
水稻 (玄米)	2	2%粒剤+0.5% 粒剤+21%フロ アブル	育苗箱処理50g/育苗箱 +6kg/10a湛水处理 +5000倍散布150L/10a	1+1+2回	21日	圃場A:0.045/0.054 (#) 圃場B:0.070/0.046 (#)
水稻 (稲わら)	2	2%粒剤+0.5% 粒剤+21%フロ アブル	育苗箱処理50g/育苗箱 +6kg/10a湛水处理 +5000倍散布150L/10a	1+1+2回	21日	圃場A:0.50/0.04 (#) 圃場B:0.26/0.02 (#)
水稻 (玄米)	2	2%粒剤	育苗箱処理 50g/育苗箱	1回	134日	圃場A:<0.005/<0.005
					122日	圃場B:<0.005/0.008
水稻 (稲わら)	2	2%粒剤	育苗箱処理 50g/育苗箱	1回	134日	圃場A:0.04/<0.02
					122日	圃場B:0.06/<0.02
水稻 (玄米)	2	2%粒剤+0.5% 粒剤+10%顆粒 水溶剤	育苗箱処理50g/育苗箱 +1.5kg/10a散布 +2000倍散布150L/10a	1+1+2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.096*/0.064** (*4回、14日/**4回、28日) (#) 圃場B:0.086/0.076* (*4回、28日) (#)
水稻 (稲わら)	2	2%粒剤+0.5% 粒剤+10%顆粒 水溶剤	育苗箱処理50g/育苗箱 +1.5kg/10a散布 +2000倍散布150L/10a	1+1+2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:2.98/0.11 (#) 圃場B:1.10/0.08 (#)
未成熟とうもろこし (生食用子実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a, 300L/10a	2回	7, 21, 42日	圃場A:<0.005/<0.005 (#) 圃場B:<0.005/<0.005 (#)
大豆 (乾燥子実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 150L/10a, 300L/10a	2回	6, 13, 21日	圃場A:<0.005/<0.005 (#)
					7, 14, 21日	圃場B:<0.005/<0.005 (#)

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
大豆 (乾燥子実)	2	30%フロアブル +0.5%粒剤+ 10%顆粒水溶剤	12mL/kg種子粉衣+6kg/10a 株元処理+2000倍散布 150L/10a, 300L/10a	1+1+2回	6, 13, 21日	圃場A:<0.005/<0.005 (#)
					7, 14, 21日	圃場B:<0.005/<0.005 (#)
小豆 (乾燥子実)	2	30%フロアブル	12mL/kg種子粉衣	1回	126日	圃場A:<0.005/<0.005 (#)
					143日	圃場B:<0.005/<0.005 (#)
小豆 (乾燥子実)	2	30%フロアブル +10%顆粒水溶 剤	12mL/kg種子粉衣+3000倍 散布150L/10a, 300L/10a	1+2回	1, 7, 14日	圃場A:0.014/0.008 (3回、14日) (#)
					1, 7, 14日	圃場B:0.022/0.018 (3回、7日) (#)
いんげん (乾燥子実)	2	10%顆粒水溶剤	3000倍散布 300L/10a	3回	7, 14日	圃場A:0.012*/0.049 (*3回、14日) 圃場B:<0.005 /<0.005
いんげん (乾燥子実)	2	30%フロアブル +0.5%粒剤+ 10%顆粒水溶剤	12mL/kg種子粉衣+6kg/10a 作条処理+2000倍散布 200L/10a, 175-200L/10a	1+1+3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01/0.01 (#) 圃場B:<0.01/<0.01 (#)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤+ 10%顆粒水溶剤	9kg/10a作条土壌混和处理 +2000倍散布200L/10a	1+3回	14, 21, 28日	圃場A:<0.005/<0.005 (#) 圃場B:0.100/0.020 (4回、21日) (#)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤+ 10%顆粒水溶剤	6kg/10a作条土壌混和处理 +750倍散布25L/10a	1+3回	14, 21, 28日	圃場A:0.02/0.02 圃場B:<0.01/<0.01
さといも (塊茎)	2	0.5%粒剤	6kg/10a植穴処理	2回	30, 37, 45日	圃場A:0.14/<0.01 (#) 圃場B:0.039/<0.01 (#)
さといも (塊茎)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 250L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.022/<0.01 (#) 圃場B:<0.01/<0.01 (#)
さといも (塊茎)	2	0.5%粒剤+ 10%顆粒水溶剤	6kg/10a植穴処理+ 2000倍散布150L/10a	1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.038/<0.01 (#) 圃場B:<0.01/<0.01 (#)
かんしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤	9kg/10a作条土壌混和	1回	112日	圃場A:<0.005/<0.005
					117日	圃場B:<0.005/<0.005
かんしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤	9kg/10a作条土壌混和+ 6kg/10a株元土壌混和	1+2回	21, 28, 42日	圃場A:0.012/<0.005 (#) 圃場B:0.006/<0.005 (#)
こんにゃくいも (塊茎)	2	0.5%粒剤	6kg/10a株元土壌混和	1回	132, 139, 146日	圃場A:<0.01/<0.01
					145, 152, 159日	圃場B:0.02/<0.01
てんさい (根部)	2	10%顆粒水溶剤	50倍灌注処理 1L/冊	1回	150, 157, 164日	圃場A:<0.005/<0.005
					156, 163, 170日	圃場B:<0.005/<0.005
だいこん (葉部)	2	70%水和剤	種子粉衣 4.3g/1000種子	1回	66, 73, 80日	圃場A:0.009/<0.005 (#) 圃場B:0.012*/0.006* (*1回、73日) (#)

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
だいこん (葉部)	2	70%水和剤＋ 0.5%粒剤＋10% 顆粒水溶剤	4.3g/1000種子粉衣＋ 6kg/10a作条処理＋ 2000倍散布150L/10a	1+1+2回	7, 14, 21日	圃場A:1.320/0.254 (#) 圃場B:0.247/0.137 (#)
だいこん (根部)	2	70%水和剤	種子粉衣 4.3g/1000種子	1回	66, 73, 80日	圃場A:0.006/<0.005 (#) 圃場B:<0.005/<0.005(#)
だいこん (根部)	2	70%水和剤＋ 0.5%粒剤＋10% 顆粒水溶剤	4.3g/1000種子粉衣＋ 6kg/10a作条処理＋ 2000倍散布150L/10a	1+1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.011/<0.005 (#) 圃場B:0.028/<0.005 (#)
だいこん (葉部)	2	70%水和剤＋ 0.5%粒剤＋10% 顆粒水溶剤	2.86g/1000種子粉衣＋ 6kg/10a播溝処理＋ 2000倍散布150L/10a	1+1+2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.358/0.136 (#) 圃場B:0.378/0.122 (#)
だいこん (根部)	2	70%水和剤＋ 0.5%粒剤＋10% 顆粒水溶剤	2.86g/1000種子粉衣＋ 6kg/10a播溝処理＋ 2000倍散布150L/10a	1+1+2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.015/<0.005 (#) 圃場B:0.010/<0.005 (#)
はくさい (茎葉)	2	0.5%粒剤	植穴処理 2g/株	1回	67, 74, 81日 48, 55, 62日	圃場A:0.016/<0.005 圃場B:0.010/<0.005
はくさい (茎葉)	2	0.5%粒剤＋10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株＋3000倍散 布200L/10a, 120～200L/10a	1+3回	3, 7, 14, 21日	圃場A:0.072/0.007 圃場B:0.354/0.020
キャベツ (葉球)	2	0.5%粒剤＋10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株 ＋2000倍散布200L/10a	1+3回	3, 7, 14日	圃場A:0.310/0.028 (#) 圃場B:0.078/<0.005 (#)
こまつな (茎葉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200-700L/10a, 300L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A:0.92/0.10 (#) 圃場B:2.34/0.360
こまつな (茎葉)	2	0.5%粒剤＋10% 顆粒水溶剤	6kg/10a播溝処理＋2000倍 散布200-700L/10a, 300L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:1.58/0.14 (#) 圃場B:2.10/0.40
みずな (茎葉)	2	0.5%粒剤＋10% 顆粒水溶剤	6kg/10a播種時作条処理＋ 2000倍散布300L/10a, 185.2L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:0.93/0.08 (#) 圃場B:1.18/0.18 (#)
チンゲンサイ (茎葉)	2	0.5%粒剤＋0.5% 粒剤＋10%顆粒 水溶剤	15g/1L培土床土混和 ＋6kg/10a作条処理 ＋2000倍散布 200L/10a, 220-250L/10a	1+1+2回	3, 7, 14日	圃場A:0.78/0.09 (#) 圃場B:2.82/0.32 (#)
ブロッコリー (花蕾)	2	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	59, 61, 65日 56, 58, 62日	圃場A:0.018*/<0.005 (*1回、65日) 圃場B:0.060/<0.005
ブロッコリー (花蕾)	2	0.5%粒剤＋10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株＋ 3000倍300L/10a	1+3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.825/0.086 圃場B:0.359/0.019

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
カリフラワー (花蕾)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 300L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.128/<0.005 (#) 圃場B:0.055/<0.005 (#)
レタス (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理1g/株+ 2000倍散布 250L/10a, 300L/10a	1+2回	7, 14日	圃場A:0.290/0.015* (*3回、14日) (#) 圃場B:0.614/0.024* (*3回、14日) (#)
サラダ菜 (茎葉)	2	0.5%粒剤	植穴処理1g/株	1回	59, 63, 70日 42, 46, 53日	圃場A:0.40*/<0.05 (*1回、70日) (#) 圃場B:1.36*/<0.05 (*1回、46日) (#)
サラダ菜 (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理1g/株+ 2000倍散布300L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:7.81/0.10 (#) 圃場B:9.87/0.09 (#)
リーフレタス (茎葉)	2	0.5%粒剤	植穴処理1g/株	1回	61, 65, 72日 62, 66, 73日	圃場A:0.28*/<0.05 (*1回、65日) (#) 圃場B:<0.05/<0.05 (#)
リーフレタス (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	1kg/株 植穴処理 +2000倍散布300L/10a	1+3回	3, 7, 14日	圃場A:7.34/0.20 (#) 圃場B:3.14/0.07 (#)
ねぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤	9kg/10a作条処理	1回	117, 124, 131日 69, 77, 84日	圃場A:0.094/0.022 圃場B:0.078/0.022
ねぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	9kg/10a作条処理 +1000倍200L/10a散布	1+3回	3, 7, 14, 21日 3, 6, 14, 21日	圃場A:0.566/0.059 圃場B:0.557/0.076
にら (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	6kg/10a作条処理 +2000倍200L/10a, 230L/10a散布	1+3回	14, 21日	圃場A:0.74/0.19 (#) 圃場B:0.15/0.42 (#)
にら (茎葉)	1	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	6kg/10a作条処理 +2000倍200L/10a, 230L/10a散布	1+3回	14日	圃場A:0.38/0.67 (#)
わけぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤	9kg/10a作条処理	1回	63, 70, 77日 23, 30, 36日	圃場A:0.05/<0.05 (#) 圃場B:0.61/0.06 (#)
わけぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤+0.5% 粒剤+10%顆粒 水溶剤	9kg/10a作条処理+9kg /10a株元処理+2000倍散 布200L/10a, 300L/10a	1+1+3回	3, 7, 14日	圃場A:1.28/0.08 (#) 圃場B:3.96/0.21* (*5回、7日) (#)
アスパラガス (茎葉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 300L/10a	3回	7日	圃場A:<0.005/<0.005 圃場B:<0.005/<0.005
セロリ (茎葉)	2	0.5%粒剤	株元処理2g/株 +植穴処理2g/株	2回	75, 82, 89日 98, 105, 112日	圃場A:<0.1/<0.1 圃場B:0.30*/<0.1 (*2回、112日)
トマト (果実)	1	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	44日	圃場A:0.008/<0.005

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
トマト (果実)	1	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株 +3000倍散布200L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.104/0.018
トマト (果実)	1	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株 +2000倍散布200L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.077/0.010
トマト (果実)	1	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株 +2000倍散布200L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.154*/0.024* (*4回、3日)
トマト (果実)	1	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株 +2000倍散布200L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.156*/0.038 (*4回、3日)
ミニトマト (果実)	2	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	72日 ----- 60日	圃場A:0.06/0.02 圃場B:<0.02/<0.02
ミニトマト (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布300-360L/10a, 350L/10a	1+1回	1, 7, 14日	圃場A:0.44/0.10* (*2回、7日) 圃場B:0.08*/0.08* (*2回、7日)
ミニトマト (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍 300-360L/10a, 350L/10a 散布	1+2回	1, 7, 14日	圃場A:0.79/0.16* (*3回、7日) 圃場B:0.17*/0.19* (*3回、7日)
ピーマン (果実)	2	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	42日 ----- 82日	圃場A:0.023/0.008 圃場B:<0.005/<0.005
ピーマン (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+3000倍散 布180L/10a, 300L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.200/0.016 圃場B:0.267/0.016
ピーマン (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布180L/10a, 300L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.411/0.044 圃場B:0.310/0.034
ピーマン (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布180L/10a, 300L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.439/0.032 圃場B:0.402/0.056
なす (果実)	2	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	97日 ----- 108日	圃場A:<0.005/<0.005 (#) 圃場B:<0.005/<0.005 (#)
なす (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+3000倍散 布200L/10a, 250L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.069/<0.005 (#) 圃場B:0.040/<0.005 (#)
なす (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布200L/10a, 250L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.121/<0.005 (#) 圃場B:0.054/<0.005 (#)
なす (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布200L/10a, 250L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.106/<0.005 (#) 圃場B:0.055/<0.005 (#)

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ししとう (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	定時的植穴処理1g/株+ 3000倍散布 150L/10a, 250L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.53*/0.08* (*4回、3日) 圃場B:0.60/0.05* (*4回、3日)
とうがらし (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	定時的植穴処理1g/株+ 2000倍散布200L/10a, 100-150L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.76/0.16 (#) 圃場B:0.34/0.03* (*4回、3日) (#)
きゅうり (果実)	1	0.5%粒剤	植穴処理1g/株	1回	43日 34日	圃場A:0.008/<0.005 圃場B:0.005/<0.005
きゅうり (果実)	2	10%顆粒水溶剤	3000倍散布 250L/10a, 200L/10a	2回	1日	圃場A:0.076/0.005 圃場B:0.104/0.006
きゅうり (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理1g/株+2000倍 散布250L/10a, 200L/10a	1+2回	1日	圃場A:0.172/0.010 圃場B:0.162/0.008
きゅうり (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理1g/株+2000倍散 布250L/10a, 200L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.141/0.008 圃場B:0.132/0.008
すいか 果実	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布176.5-200L/10a, 76.1-272.4L/10a	1+3回	1, 3, 7日	圃場A:0.017/<0.005 圃場B:0.046/0.007
メロン (果実)	2	0.5%粒剤	植穴処理2g/株	1回	83日 87日	圃場A:0.008/<0.005 圃場B:0.007/<0.005
メロン (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布250L/10a, 300L/10a	1+3回	3, 7, 14日	圃場A:0.049*/0.006* (*4回、14日) 圃場B:0.029*/<0.005 (*4回、14日)
メロン (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布250L/10a, 300L/10a	1+3回	1, 3, 7, 14, 21, 28, 35日	圃場A:0.023/0.008* (*4回、35日) 圃場B:0.064*/0.014** (*4回、14日/**4回、28日)
メロン (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布200L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:0.008*/<0.005 (*3回、14日) 圃場B:0.010*/<0.005 (*3回、7日)
にがうり (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	植穴処理2g/株+2000倍散 布100-200L/10a, 202L/10a	1+3回	7日	圃場A:0.17/<0.01 (#) 圃場B:0.06/0.01 (#)
食用へちま (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a, 180L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.11/<0.02 圃場B:0.09*/<0.02 (*3回、3日)
えだまめ (さや)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a, 400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.061/0.020 (#) 圃場B:0.025/0.020 (#)
えだまめ (さや)	2	30%フロアブル +0.5%粒剤+ 10%顆粒水溶剤	12mL/kg種子粉衣+6kg/10a +2000倍散布 200L/10a, 400L/10a	1+1+2回	7, 14, 21日	圃場A:0.090/0.028 (#) 圃場B:0.025/0.019 (#)

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
未成熟いんげん (さや)	2	10%顆粒水溶剤	3000倍散布 300L/10a, 150L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:0.071/0.074 圃場B:0.053/0.118
ほうれんそう (茎葉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 300L/10a, 150L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A:1.26/0.68 圃場B:2.62/0.75
ほうれんそう (茎葉)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	株元処理6kg/10a+2000倍 散布200, 300L/10a, 250L/10a	1+2回	3, 7, 14日	圃場A:0.96/0.58 圃場B:4.02/1.20
オクラ (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 150-210L/10a, 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.30/<0.01 圃場B:0.21/0.01* (*3回、3日)
れんこん (塊茎)	2	0.5%粒剤	湛水処理6kg/10a	2回	14, 21, 28, 35日	圃場A:0.008/<0.005 圃場B:<0.005/<0.005
れんこん (塊茎)	2	0.5%粒剤	湛水処理6kg/10a	3回	14, 21, 28, 35日	圃場A:0.006/<0.005 圃場B:<0.005/<0.005
ウコギ (塊茎)	2	10%顆粒水溶剤	3000倍散布 150L/10a	2回	3, 7, 14日	圃場A:0.4/<0.2 圃場B:<0.2/<0.2
エンサイ (茎葉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	14日	圃場A:0.07/<0.02 圃場B:0.42/0.04
みょうが (花穂)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:<0.02/<0.02 圃場B:<0.02/<0.02
モロヘイヤ (茎葉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L, 206L, 211L/10a, 200L/10a	3回	7, 14日	圃場A:0.66/0.43 圃場B:0.36/0.34
温州みかん (果肉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.040*/0.013 (*3回、28日) 圃場B:0.008/<0.005
温州みかん (果肉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	2回	21, 28日	圃場A:0.018*/0.007 (*2回、28日) 圃場B:<0.005/<0.005
温州みかん (果皮)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.65/0.28 圃場B:0.74/0.12
温州みかん (果皮)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	2回	21, 28日	圃場A:0.47/0.24 圃場B:0.58/0.12
温州みかん (果肉)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.080/0.014* (*3回、28日)

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
温州みかん (果肉)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 1000L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.094*/0.022** (*3回、21日/**3回、28日) (#)
温州みかん (果皮)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:1.99/0.51* (*3回、21日)
温州みかん (果皮)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 1000L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:1.12*/0.47* (*3回、21日) (#)
温州みかん (果肉)	1	10%顆粒水和剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28, 35日	圃場A:0.030*/0.008* (*3回、21日)
温州みかん (果肉)	1	10%顆粒水和剤	2000倍散布 1000L/10a	3回	14, 21, 28, 35日	圃場A:0.050/0.011* (*3回、28日) (#)
温州みかん (果皮)	1	10%顆粒水和剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28, 35日	圃場A:1.00/0.30* (*3回、21日)
温州みかん (果皮)	1	10%顆粒水和剤	2000倍散布 1000L/10a	3回	14, 21, 28, 35日	圃場A:1.36/0.36 (#)
なつみかん (果肉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 28, 42, 49, 64日 14, 28, 42, 49, 60日	圃場A:0.024/0.010* (*3回、64日) 圃場B:0.018*/0.008* (*3回、42日)
なつみかん (果肉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	2回	28, 42, 49, 64日 28, 42, 49, 60日	圃場A:0.006*/0.005 (*2回、42日) 圃場B:0.008/<0.005
なつみかん (果皮)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 28, 42, 49, 64日 14, 28, 42, 49, 60日	圃場A:0.38/0.14* (*3回、49日) 圃場B:0.55/0.13* (*3回、42日)
なつみかん (果皮)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	2回	28, 42, 49, 64日 28, 42, 49, 60日	圃場A:0.20/0.04 圃場B:0.20*/0.08* (*2回、42日)
なつみかん (全果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 28, 42, 49, 64日 14, 28, 42, 49, 60日	圃場A:0.1/0.04 圃場B:0.14/0.04
なつみかん (全果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	2回	28, 42, 49, 64日 28, 42, 49, 60日	圃場A:0.06/0.02 圃場B:0.07/0.02
なつみかん (果実全体)	2	10%顆粒水和剤	2000倍散布 1224L/10a, 600L/10a	3回	14, 21, 28, 45日	圃場A:0.48*/0.03** (*3回、21日/**3回、45日) (#) 圃場B:0.22/0.03* (*3回、21日)
すだち (果実)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 28, 42日	圃場A:0.040/0.038

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
すだち (果実)	1	10%顆粒水和剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 21, 28, 45日	圃場A:0.13/0.06
かぼす (果実)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 28, 42日	圃場A:0.058/0.010
かぼす (果実)	1	10%顆粒水和剤	2000倍散布 640L/10a	3回	14, 21, 28, 45日	圃場A:0.05/0.02
ゆず (果実)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	14, 28, 42日	圃場A:0.097/0.063
りんご (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a, 700L/10a	2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.064/0.006* (*2回、21日) 圃場B:0.050/0.010
りんご (果実)	2	10%顆粒水和剤	2000倍散布 500L/10a, 700L/10a	2回	7, 14, 21, 28, 35日 7, 14, 19, 28, 35日	圃場A:0.092*/0.008* (*2回、35日) 圃場B:0.044*/<0.005 (*2回、19日)
日本なし (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 400L/10a	3回	14, 21, 28日 28日	圃場A:0.045/0.016* (*3回、21日) 圃場B:0.018/0.011
日本なし (果実)	1	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 400L/10a	4回	12, 19日	圃場A:0.039/0.016* (*4回、19日) (#)
日本なし (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 300L/10a, 400L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.32*/<0.02 (*3回、3日) 圃場B:0.14*/0.04** (*3回、3日/ **3回、14日)
もも (果肉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 400L/10a, 350L/10a	3回	14, 21, 28日 14, 17, 24日	圃場A:0.008/0.046 圃場B:0.059*/0.080* (*3回、17日)
もも (果皮)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 400L/10a, 350L/10a	3回	14, 21, 28日 14, 17, 24日	圃場A:0.10/0.15 圃場B:0.23*/0.26 (*3回、17日)
もも (果肉)	2	0.5%粒剤	200g/樹 地表表面処理	1回	30日	圃場A:<0.02/<0.02 (#) 圃場B:<0.02/<0.02 (#)
もも (果皮)	2	0.5%粒剤	200g/樹 地表表面処理	1回	30日	圃場A:<0.1/<0.1 (#) 圃場B:<0.1/<0.1 (#)
もも (果肉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a, 400L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.12*/0.08* (*3回、7日) 圃場B:0.14/0.12* (*3回、14日)
もも (果皮)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a, 400L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:2.64/0.53* (*3回、7日) 圃場B:1.90/0.61

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
すもも (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 300L/10a, 500L/10a	3回	7, 14日	圃場A:0.03/<0.02 圃場B:<0.02/<0.02
うめ (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 600L/10a, 400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.089/0.117* (*2回、14日) 圃場B:1.080/0.242* (*2回、21日)
おうとう (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	2回	1, 3, 7, 14日	圃場A:1.36*/0.12* (*2回、7日) 圃場B:1.62/0.139* (*2回、14日)
いちご (果実)	2	0.5%粒剤	株元処理2g/株	1回	92, 99, 106, 115日 125, 132, 139日	圃場A:0.014/<0.005 (#) 圃場B:<0.005/<0.005 (#)
いちご (果実)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	株元処理2g/株+植穴処理 2g/株+2000倍散布 250L/10a, 200L/10a	1+1+2回	7日	圃場A:0.620/0.010 (#) 圃場B:0.266/0.007 (#)
ぶどう (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 300L/10a, 500L/10a	2回	7, 14, 21, 28日	圃場A:0.540/0.122* (*2回、28日) 圃場B:0.943*/0.053* (*2回、14日)
かき (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 500L/10a	3回	3, 7, 14, 21日	圃場A:0.320/0.012* (*3回、7日) 圃場B:0.164/0.019* (*3回、21日)
バナナ (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.19/<0.02 圃場B:0.28*/<0.02 (*3回、14日)
グアバ (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 313L/10a, 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.03/<0.02 圃場B:0.02*/<0.02 (*2回、21日)
マンゴー (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 167L/10a, 300L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A:0.03/0.03 圃場B:0.02/0.04* (*2回、21日)
いちじく (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 330L/10a, 500L/10a	2回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.56/0.12 圃場B:0.43/<0.1
アセロラ (果実)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 165L/10a, 556L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.06/<0.04 圃場B:0.22/0.09
茶 (荒茶)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a	1回	7, 14, 21日	圃場A:7.13/0.25 圃場B:2.28/0.07
茶 (浸出液)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a	1回	7, 14, 21日	圃場A:6.08/0.23 圃場B:1.54/0.06
茶 (荒茶)	2	10%顆粒水和剤	2000倍散布 200L/10a	1回	7, 14, 21日	圃場A:9.60/0.17 圃場B:3.23/0.09

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
茶 (浸出液)	2	10%顆粒水和剤	2000倍散布 200L/10a	1回	7, 14, 21日	圃場A:8.40/0.15 圃場B:2.81/0.08
セージ (茎葉)	2	10%顆粒水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	21日	圃場A:0.47/0.12 圃場B:0.54/0.06
あさつき (可食部)	2	0.5%粒剤	作条処理9kg/10a	1回	46, 53, 60日 23, 30, 36日	圃場A:0.31*/0.05 (*1回、53日) (#) 圃場B:0.08/<0.05 (#)
あさつき (可食部)	2	0.5%粒剤+10% 顆粒水溶剤	作条処理9kg/10a +株元処理9kg/10a +2000倍散布150L/10a	1+1+3回	3, 7, 14日	圃場A:2.26/0.18 (#) 圃場B:0.88/0.05 (#)

(#) これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。
最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書(案)「チアメトキサム」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

チアメトキサム海外作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	【チアメトキサム/クロチアニジン】
小麦 (穀粒)	16	35%水和剤	30g ai/100kg 種子 種子処理	1回	88, 95, 102, 117日	圃場A: ND / ND
					91, 98, 105, 113, 119日	圃場B: ND / ND
					92日	圃場C: ND / ND
					98日	圃場D: ND / ND
					99日	圃場E: ND / ND
					103日	圃場F: ND / ND
					107日	圃場G: ND / ND
						圃場H: ND / ND
					110日	圃場I: ND / ND
					114日	圃場J: ND / ND
					117日	圃場K: ND / ND
					119日	圃場L: ND / ND
					122日	圃場M: ND / ND
					124日	圃場N: ND / ND
	圃場O: ND / ND					
	圃場P: ND / ND					
大麦 (穀粒)	9	25%顆粒水和剤	0.125lb ai/acre 散布	2回	20日	圃場A: 0.15 / 0.02
					20日	圃場B: 0.14 / 0.01
					21日	圃場C: 0.01 / <0.01
					21日	圃場D: <0.01 / <0.01
					21日	圃場E: 0.13 / <0.01
					21日	圃場F: 0.12 / <0.01
					21日	圃場G: 0.20 / <0.01
					24日	圃場H: <0.01 / <0.01
					24日	圃場I: <0.01 / <0.01
ソルガム (穀粒)	9	70%水和剤	30g ai/100kg 種子 種子処理	1回	112日	圃場A: <0.01 / <0.01
					116日	圃場B: <0.01 / <0.01
					130日	圃場C: <0.01 / <0.01
					132日	圃場D: <0.01 / <0.01
					134日	圃場E: <0.01 / <0.01
					144日	圃場F: <0.01 / <0.01
					149日	圃場G: <0.01 / <0.01
					156日	圃場H: <0.01 / <0.01
174日	圃場I: <0.01 / <0.01					
ライマ豆 (乾燥子実)	6	47.6% 水和剤	50g ai/100kg 種子 種子処理	1回	91日	圃場A: <0.01 / <0.01
					112日	圃場B: <0.01 / <0.01
					122日	圃場C: <0.01 / <0.01
					126日	圃場D: <0.01 / <0.01
					155日	圃場E: <0.01 / <0.01
					175日	圃場F: <0.01 / <0.01
キャベツ (葉部)	6	25%顆粒水和剤	0.172lb ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: 0.69 / 0.06
					7日	圃場B: 0.06 / 0.01
					7日	圃場C: 0.12 / 0.02
					7日	圃場D: 0.27 / 0.02
					7日	圃場E: 0.24 / 0.03
					7日	圃場F: 0.14 / 0.03
ブロッコリー (花蕾)	6	25%顆粒水和剤	0.172lb ai/acre 散布	2回	6日	圃場A: 0.06 / <0.01
					7日	圃場B: 0.06 / <0.01
					7日	圃場C: 0.16 / 0.03
					7日	圃場D: 0.13 / 0.02
					7日	圃場E: 0.07 / <0.01
					7日	圃場F: 0.03 / <0.01
からしな (茎葉)	6	25%顆粒水和剤	0.172lb ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: 0.64 / 0.28
					7日	圃場B: 0.37 / 0.14
					7日	圃場C: 0.34 / 0.06
					7日	圃場D: 0.37 / 0.14
					7日	圃場E: 1.45 / 0.31
					7日	圃場F: 3.15 / 0.23

農作物	試験圃 場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
アーティチョーク (茎葉)	3	25%顆粒水和剤	0.0941b ai/acre 散布	2回	4日	圃場A: 0.2 / 0.022
					4日	圃場B: 0.15 / 0.022
					4日	圃場C: 0.16 / 0.020
レタス (茎葉)	5	25%顆粒水和剤	0.1721b ai/acre 散布	2回	6日	圃場A: 0.03 / <0.01
					7日	圃場B: 0.21 / 0.01
					7日	圃場C: 0.09 / <0.01
					7日	圃場D: 0.02 / <0.01
					7日	圃場E: 0.16 / <0.01
リーフレタス (茎葉)	6	25%顆粒水和剤	0.1721b ai/acre 散布	2回	6日	圃場A: 0.21 / 0.01
					7日	圃場B: 0.48 / 0.03
					7日	圃場C: 0.80 / 0.03
					7日	圃場D: 0.06 / 0.01
					7日	圃場E: 0.85 / 0.04
					7日	圃場F: 1.1 / 0.03
にんじん (根部)	7	25%顆粒水和剤	0.1251b ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: <0.01 / <0.01
					7日	圃場B: 0.01 / <0.01
					7日	圃場C: <0.01 / <0.01
					7日	圃場D: <0.01 / <0.01
					7日	圃場E: <0.01 / <0.01
					8日	圃場F: <0.01 / <0.01
					8日	圃場G: <0.01 / <0.01
セルリー (葉部)	6	25%顆粒水和剤	0.1721b ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: 0.09 / <0.01
					7日	圃場B: 0.37 / 0.02
					7日	圃場C: 0.30 / 0.01
					7日	圃場D: 0.20 / <0.01
					7日	圃場E: 0.07 / <0.01
					7日	圃場F: 0.13 / <0.01
きゅうり (果実)	8	25%顆粒水和剤	0.1721b ai/acre 散布	2回	0日	圃場A: 0.11 / <0.01
					0日	圃場B: 0.06 / <0.01
					0日	圃場C: 0.02 / <0.01
					0日	圃場D: 0.04 / <0.01
					0日	圃場E: 0.06 / <0.01
					0日	圃場F: 0.06 / <0.01
					0日	圃場G: 0.08 / <0.01
					0日	圃場H: 0.07 / <0.01
サマースカッシュ (果実)	5	25%顆粒水和剤	0.1721b ai/acre 散布	2回	1日	圃場A: 0.09 / <0.01
					1日	圃場B: 0.02 / <0.01
					1日	圃場C: 0.06 / <0.01
					1日	圃場D: 0.06 / <0.01
					1日	圃場E: 0.06 / <0.01
カンタローブ (果実)	5	25%顆粒水和剤	0.1721b ai/acre 散布	2回	1日	圃場A: 0.03 / <0.01
					1日	圃場B: 0.03 / <0.01
					1日	圃場C: 0.03 / <0.01
					1日	圃場D: 0.06 / <0.01
					1日	圃場E: 0.11 / <0.01
ほうれんそう (茎葉)	6	25%顆粒水和剤	0.1721b ai/acre 散布	2回	7日	圃場A: 0.65 / 0.75
					7日	圃場B: 0.52 / 0.42
					7日	圃場C: 0.26 / 0.37
					7日	圃場D: 0.05 / 0.20
					7日	圃場E: 0.27 / 0.59
					8日	圃場F: 0.07 / 0.72
さや豆 (さや)	7	47.6% 水和剤	50g ai/100kg 種子 種子処理	1回	62日	圃場A: <0.01 / <0.01
					62日	圃場B: <0.01 / <0.01
					69日	圃場C: <0.01 / <0.01
					71日	圃場D: <0.01 / <0.01
					74日	圃場E: <0.01 / <0.01
					105日	圃場F: <0.01 / <0.01
					140日	圃場G: <0.01 / <0.01

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
りんご (果実)	9	25%顆粒水和剤	0.2581b ai/acre 散布	2回	14日	圃場A: 0.11 / 0.02
					14日	圃場B: 0.14 / <0.01
					14日	圃場C: 0.07 / <0.01
					14日	圃場D: 0.07 / <0.01
					14日	圃場E: 0.05 / <0.01
					14日	圃場F: 0.03 / <0.01
					14日	圃場G: 0.09 / <0.01
					14日	圃場H: 0.04 / <0.01
					14日	圃場I: 0.05 / <0.01
なし (果実)	6	25%顆粒水和剤	0.2581b ai/acre 散布	2回	14日	圃場A: 0.04 / 0.03
					14日	圃場B: 0.03 / 0.02
					14日	圃場C: 0.03 / 0.01
					14日	圃場D: 0.05 / 0.04
					14日	圃場E: 0.05 / 0.02
					14日	圃場F: 0.07 / 0.03
プラム (果実)	6	25%顆粒水和剤	0.1721b ai/acre 散布	2回	14日	圃場A: 0.02 / 0.02
					14日	圃場B: <0.01 / <0.01
					14日	圃場C: <0.01 / <0.01
					14日	圃場D: <0.01 / <0.01
					14日	圃場E: 0.02 / 0.01
					14日	圃場F: 0.01 / 0.01
チェリー (果実)	4	25%顆粒水和剤	0.1721b ai/acre 散布	2回	13日	圃場A: 0.24 / 0.02
					14日	圃場B: 0.15 / 0.03
					14日	圃場C: 0.21 / 0.03
					15日	圃場D: 0.24 / 0.02
チェリー (果実)	4	25%顆粒水和剤	0.1721b ai/acre 散布	2回	14日	圃場A: 0.20 / 0.01
					14日	圃場B: 0.16 / <0.01
					14日	圃場C: 0.19 / 0.01
					14日	圃場D: 0.13 / <0.01
ストロベリー (果実)	8	25%顆粒水和剤	0.1881b ai/acre 散布	3回	3日	圃場A: 0.14 / <0.01
					3日	圃場B: 0.05 / <0.01
					3日	圃場D: 0.06 / <0.01
					3日	圃場E: 0.04 / <0.01
					3日	圃場F: 0.16 / <0.01
					3日	圃場G: 0.02 / <0.01
					3日	圃場H: 0.26 / <0.01
					3日	圃場I: 0.02 / <0.01
ラズベリー (果実)	3	25%顆粒水和剤	0.0941b ai/acre 散布	2回	3日	圃場A: 0.06 / 0.01
					3日	圃場B: 0.11 / 0.02
					3日	圃場C: 0.01 / <0.01
ブルーベリー (果実)	9	25%顆粒水和剤	0.1881b ai/acre 散布	3回	3日	圃場A: 0.06 / 0.03
					3日	圃場B: 0.07 / 0.01
					3日	圃場C: 0.07 / 0.01
					3日	圃場D: 0.07 / 0.02
					3日	圃場E: 0.05 / 0.04
					3日	圃場F: 0.06 / <0.01
					3日	圃場G: 0.10 / <0.01
					3日	圃場H: 0.06 / <0.01
					3日	圃場I: <0.01 / <0.01
クランベリー (果実)	9	25%顆粒水和剤	0.1881b ai/acre 散布	3回	28日	圃場A: <0.010 / <0.010
					30日	圃場B: <0.010 / <0.010
					30日	圃場C: <0.010 / <0.010
					30日	圃場D: <0.010 / <0.010
					30日	圃場E: <0.010 / <0.010
					30日	圃場F: <0.010 / <0.010

農作物	試験圃 場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 【チアメトキサム/クロチアニジン】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
綿実 (種子)	11	25%顆粒水和剤	0.094lb ai/acre 散布	1回	20日	圃場A: <0.01 / <0.01
					20日	圃場B: <0.01 / <0.01
					20日	圃場C: 0.04 / <0.01
					20日	圃場D: <0.01 / <0.01
					20日	圃場E: <0.01 / <0.01
					20日	圃場F: <0.01 / <0.01
					21日	圃場G: <0.01 / <0.01
					21日	圃場H: 0.14 / <0.01
					21日	圃場I: 0.01 / <0.02
					21日	圃場J: <0.01 / <0.01
					24日	圃場K: <0.01 / 20
キャノーラ (種子)	11	10.3%水和剤	400g ai/100kg 種子 種子処理	1回	90日	圃場A: <0.025 / <0.025
					90日	圃場B: <0.025 / <0.025
					94日	圃場C: <0.025 / <0.025
					94日	圃場D: <0.025 / <0.025
					103日	圃場E: <0.025 / <0.025
					104日	圃場F: <0.025 / <0.025
					108日	圃場G: <0.025 / <0.025
					119日	圃場H: <0.025 / <0.025
					120日	圃場I: <0.025 / <0.025
					120日	圃場J: <0.025 / <0.025
キャノーラ (種子)	8	10.3%水和剤	400g ai/100kg 種子 種子処理	1回	87日	圃場A: <0.025 / <0.025
					87日	圃場B: <0.01 / <0.01
					91日	圃場C: <0.01 / <0.01
					97日	圃場D: <0.025 / <0.025
					97日	圃場E: <0.01 / <0.01
					116日	圃場F: <0.01 / <0.01
					116日	圃場G: <0.01 / <0.01
					190日	圃場H: <0.01 / <0.01
ペカン (種子)	8	25%顆粒水和剤	0.125lbs ai/ha 散布	1回	12日	圃場A: <0.02 / <0.02
					12日	圃場B: <0.02 / <0.02
					14日	圃場C: <0.02 / <0.02
					14日	圃場D: <0.02 / <0.02
					14日	圃場E: <0.02 / <0.02
					14日	圃場F: <0.02 / <0.02
					14日	圃場G: <0.02 / <0.02
					14日	圃場H: <0.02 / <0.02
コーヒー (種子)	4	1%粒剤及び 20%粒剤	600g ai/ha 散布	2回	54日	圃場A: <0.02 / <0.02
					55日	圃場B: <0.02 / <0.02
					60日	圃場C: <0.02 / <0.02
					60日	圃場D: <0.02 / <0.02
ホップ (種子)	3	25%顆粒水和剤	0.125lbs ai/ha 散布	1回	62日	圃場A: 0.0548 / 0.0272
					64日	圃場B: 0.0269 / <0.025
					66日	圃場C: <0.025 / <0.025

最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

農産物名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
米	0.3	0.1	○・申		0.02	カナダ <0.005, <0.005, 0.027(#), 0.024(#), 0.045(#), 0.077(#), 0.045(#), 0.070(#), <0.005, <0.005, 0.096(#), 0.086(#)
小麦	0.02	0.02			0.02	カナダ 【ND(n=16)(カナダ小麦)】
大麦	0.3	0.02			0.30	アメリカ 【<0.01-0.20(n=9)(米国大 麦)】
ライ麦		0.02			0.02	カナダ
とうもろこし	0.02	0.02	○		0.02	アメリカ <0.005(#), <0.005(#)
そば		0.02			0.02	カナダ
その他の穀類	0.02	0.02			0.02	アメリカ 【<0.01(n=9)(米国モロコ シ)】
大豆	0.02	0.02	○		0.02	アメリカ <0.005(#), <0.005(#), <0.005(#), <0.005(#)
小豆類	0.05	0.5	○		0.02	アメリカ <0.005(#), <0.005(#), 0.014(#), 0.022(#)(小豆) 0.012, <0.005, <0.01, <0.01(いんげん)
えんどう	0.02	0.5			0.02	アメリカ 【米国ライマ豆参照】
そらまめ	0.02	0.5			0.02	アメリカ 【米国ライマ豆参照】
らっかせい		0.5			0.02	カナダ
その他の豆類	0.02	0.5			0.02	アメリカ 【米国ライマ豆参照】
ばれいしょ	0.3	0.5	○		0.25	アメリカ <0.005(#), 0.100(#,\$), 0.02, <0.01
さといも類	0.5	0.5	○		0.02	アメリカ 0.14(#), 0.039(#), 0.022(#), <0.01(#), 0.038(#), <0.01(#)
かんしょ	0.03	0.5	○		0.02	アメリカ <0.005, <0.005, 0.012(#), 0.006(#)
やまいも		0.5			0.02	アメリカ
こんにやくいも	0.1	0.5	申		0.02	カナダ <0.01, 0.02
その他のいも類		0.5			0.02	アメリカ
てんさい さとうきび	0.02	0.1 0.02	○		0.02 0.02	カナダ カナダ <0.005, <0.005
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.2	0.02	申		0.02	アメリカ 0.006(#), <0.005(#), 0.011(#), 0.028(#,\$), 0.015(#), 0.010(#)
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	3	2	申		0.02	カナダ 0.009(#), 0.012(#), 1.320(#,\$), 0.247(#), 0.358(#), 0.378(#)
かぶ類の根	0.02	0.02			0.02	アメリカ 【米国にんじん参照】
かぶ類の葉		2			0.02	カナダ
西洋わさび	0.02	0.02			0.02	アメリカ 【米国にんじん参照】
クレソン	3	1			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】
はくさい	2	1	○		4.5	アメリカ 0.016, 0.010, 0.072, 0.354 【米国キャベツ参照】
キャベツ	2	2	○		4.5	アメリカ 0.310, 0.078 【0.06-0.69(n=6)(米国 キャベツ)】
芽キャベツ	2	2			4.5	アメリカ 【米国キャベツ参照】
ケール	3.0	2			3.0	アメリカ 【米国からしな参照】
こまつな	5	2	○・申		3.0	アメリカ 0.92(#), 2.34, 1.58(#), 2.10

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現 行 ppm	登録 有 無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準 値 ppm	
きょうな	3	2	○・申		3.0	アメリカ 0.93(#), 1.18(#)
チンゲンサイ	5	2	○・申		3.0	アメリカ 0.78(#), 2.82(#)
カリフラワー	2	2	○		4.5	アメリカ 0.128(#), 0.055(#) 【米国キャベツ参照】
ブロッコリー	2	2	○		4.5	アメリカ 0.018, 0.060, 0.825, 0.359 【米国キャベツ参照】
その他のあぶらな科野菜	5	2	○・申		4.5	アメリカ (チンゲンサイ参照)
ごぼう	0.02	0.02			0.02	アメリカ 【米国にんじん参照】
サルシフィー	0.02	0.02			0.02	アメリカ 【米国にんじん参照】
アーティチョーク	0.45	2			0.45	アメリカ 【0.15-0.2(n=3)(米国アー ティチョーク)】
チコリ	3	2			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】
エンダイブ	3	2			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】
しゅんぎく	3	2			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】
						0.290(#), 0.614(#)(レタス) 0.40(#), 1.36(#), 7.81(#), 9.87(#)(サラダ菜) 0.28(#), <0.05(#), 7.34(#), 3.14(#)(リーフレ タス) 【0.02-0.21(n=5)(米国レタ ス)】 【0.06-1.1(n=6)(米国リーフ レタス)】
レタス	3	2	○・申		4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】
その他のきく科野菜	3	2			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】
たまねぎ		0.02			0.02	カナダ 0.094, 0.078, 0.566, 0.557
ねぎ	2	2	○		0.02	カナダ
にんにく		0.02			0.02	カナダ
にら	2	2	○		0.02	カナダ 0.74(#\$), 0.15(#), 0.38(#)
アスパラガス	0.02	2	○		0.02	カナダ <0.005, <0.005
わけぎ	5	2	○・申		0.02	カナダ 0.05(#), 0.61(#), 1.28(#), 3.96(#)
その他のゆり科野菜		2			0.02	カナダ
にんじん	0.02	0.02			0.02	アメリカ 【<0.01-0.01(n=7)(米国に んじん)】
パースニップ	0.02	0.02			0.02	アメリカ 【米国にんじん参照】
パセリ	3	2			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】 <0.1, 0.30(\$) 【0.07-0.37(n=6)(米国セロ リ)】
セロリ	0.7	2	○		4.0	アメリカ
みつば		2			0.02	カナダ
その他のせり科野菜	3	2			4.0	アメリカ 【米国リーフレタス参照】
トマト	2	0.5	○・申		0.25	アメリカ 0.008, 0.104, 0.077, 0.154, 0.156(トマト) 0.06, <0.02, 0.44, 0.08, 0.79(\$), 0.17(ミニ トマト)
ピーマン	1	1	○		0.25	アメリカ 0.023, <0.005, 0.200, 0.267, 0.411, 0.310, 0.439, 0.402
なす	0.5	0.5	○		0.25	アメリカ <0.005(#), <0.005(#), 0.069(#), 0.040(#), 0.121(#\$), 0.054(#), 0.106(#), 0.055(#)
その他のなす科野菜	2	1	○・申		0.25	アメリカ 0.53, 0.60(ししとう) 0.76(#), 0.34(#)(とうが らし)

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
きゅうり	0.5	0.5	○		0.2 アメリカ	0.008, 0.005, 0.076, 0.104, 0.172, 0.162, 0.141, 0.132
かぼちや	0.2	0.5			0.2 アメリカ	【0.02-0.09(n=5)(米国サ マースカッシュ)】
しろり	0.2	0.5			0.2 アメリカ	【米国サマースカッシュ参照】
すいか	0.2	0.5	○		0.2 アメリカ	0.017, 0.046
メロン類果実	0.3	0.5	○		0.2 アメリカ	0.008, 0.007, 0.049, 0.029, 0.023, 0.064, 0.008, 0.010
まくわり	0.2	0.5			0.2 アメリカ	【米国カンタローブ参照】
その他のうり科野菜	0.5	0.5	○		0.2 アメリカ	0.17(#), 0.06(#)(にがうり) 0.11, 0.09(食用へちま) 【0.03-0.11(n=5)(米国カ ンタローブ)】
ほうれんそう	10	2	申		4.0 アメリカ	1.26, 2.62, 0.96, 4.02(\$)
たけのこ		0.02			0.02 カナダ	
オクラ	0.7	1	○		0.02 カナダ	0.30, 0.21
しょうが		0.02			0.02 アメリカ	
未成熟えんどう	0.02	0.5			0.02 アメリカ	【<0.01(n=7)(米国さや 豆)】
未成熟いんげん	0.3	0.5	○		0.02 アメリカ	0.071, 0.053
えだまめ	0.3	0.5	○		0.02 アメリカ	0.061(#), 0.025(#), 0.090(#), 0.025(#)
マッシュルーム		0.02			0.02 カナダ	
しいたけ		0.02			0.02 カナダ	
その他のきのこ類		0.02			0.02 カナダ	
その他の野菜	3	2	○		4.0 アメリカ	0.008, <0.005, 0.006, <0.005(れんこん) 0.4, <0.2(ウコギ) 0.07, 0.42(エンサイ) 0.66, 0.36(モロヘイヤ) 【米国リーフレタス参照】
みかん	0.3	0.5	○		1 オーストラリア	0.040, 0.008, 0.018, <0.005, 0.080, 0.094(#)/0.030, 0.050(#)
なつみかんの果実全体	1	0.5	○・申		1 オーストラリア	0.1, 0.14, 0.06, 0.07/0.48(#), 0.22
レモン	1	0.5	○・申		1 オーストラリア	(なつみかん参照)
オレンジ(ネーブルオレンジを含む)	1	0.5	○・申		1 オーストラリア	(なつみかん参照)
グレープフルーツ	1	0.5	○・申		1 オーストラリア	(なつみかん参照)
ライム	1	0.5	○・申		1 オーストラリア	(なつみかん参照)
その他のかんきつ類果実	1	0.5	○・申		1 オーストラリア	0.040/0.13(すだち) 0.058/0.05(かぼす) 0.097(ゆず) (なつみかん参照)
りんご	0.3	1	○		0.2 アメリカ	0.064, 0.050/0.092, 0.044 【0.03-0.14(n=9)(米国り んご)】
日本なし	1	1	○		0.2 アメリカ	0.045, 0.018, 0.039(#), 0.32(\$), 0.14
西洋なし	1	1	○		0.2 アメリカ	(日本なし参照) 【0.03-0.07(n=6)(米国西 洋なし)】

農産物名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm	
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm		
マルメロ	0.2	1			0.2	アメリカ	【米国りんご参照】
びわ	0.2	0.5			0.2	アメリカ	【米国りんご参照】
もも	0.5	0.5	○		0.5	アメリカ	0.008, 0.059, <0.02, <0.02, 0.12, 0.14
ネクタリン	0.5	1			0.5	アメリカ	【米国チェリー参照】
あんず(アブリコットを含む)	3	5	○		0.5	アメリカ	(うめ参照)
すもも(ブルーベリーを含む)	0.5	5	○		0.5	アメリカ	【米国チェリー参照】
うめ	3	5	○		0.02	カナダ	0.089, 1.080(\$)
おうとう(チェリーを含む)	5	5	○		0.5	アメリカ	1.36, 1.62(\$) 【0.13-0.24(n=8)(米国 チェリー)】
いちご	2	5	○		0.3	アメリカ	0.014(#), <0.005(#), 0.620(#), 0.266(#) 【0.02-0.26(n=8)(米国 ストロベリー)】
ラズベリー	0.35	5			0.35	アメリカ	【0.01-0.11(n=3)(米国ラ ズベリー)】
ブラックベリー	0.35	5			0.35	アメリカ	【米国ラズベリー参照】
ブルーベリー	0.2	5			0.20	アメリカ	【<0.01-0.10(n=9)(米国ブ ルーベリー)】
クランベリー	0.02	5			0.02	アメリカ	【<0.010(n=9)(米国クラン ベリー)】
ハuckleベリー	0.2	5			0.20	アメリカ	【米国ブルーベリー参 照】
その他のベリー類果実	0.35	5			0.35	アメリカ	【米国ラズベリー参照】
ぶどう	2	5	○		0.20	アメリカ	0.540, 0.943
かき	1	1	○		0.02	カナダ	0.320(\$), 0.164
バナナ	0.7	1	○		0.02	カナダ	0.19, 0.28
キウイ		0.5			1	ニュージーランド	
パパイヤ		1			0.02	カナダ	
アボカド		1			0.02	カナダ	
パイナップル		1			0.02	カナダ	
グアバ	0.2	1	○		0.02	カナダ	0.03(\$), 0.02
マンゴー	0.2	1	○		0.02	カナダ	0.03(\$), 0.02
パッションフルーツ		1			0.02	カナダ	
なつめやし		5			0.02	カナダ	
その他の果実	2	5	○		0.25	アメリカ	0.56(\$), 0.43(いちじく) 0.06, 0.22(アセロラ)
ひまわりの種子		0.02			0.02	アメリカ	
ごまの種子		0.02			0.02	カナダ	
べにばなの種子		0.02			0.02	アメリカ	
綿実	0.1	0.02			0.10	アメリカ	【<0.01-0.14(n=11)(米国 綿実)】
なたね	0.02	0.02			0.02	アメリカ	【<0.01-<0.025(n=11)(米 国キャノーラ)】
その他のオイルシード		0.02			0.02	アメリカ	
ぎんなん		0.02			0.02	カナダ	
くり		0.02			0.02	カナダ	
ペカン	0.02	0.02			0.02	アメリカ	【<0.02(n=8)(米国ペカ ン)】
アーモンド		0.02			0.02	カナダ	
くるみ		0.02			0.02	カナダ	
その他のナッツ類		0.02			0.02	カナダ	

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
茶	15	20	○		0.02	カナダ [*] 7.13, 2.28/9.60, 3.23(荒茶) 6.08, 1.54/8.40, 2.81(浸出液)
コーヒー豆 カカオ豆	0.05	0.04 0.02			0.05 0.02	アメリカ カナダ [*] 【<0.02(n=4)(米国コー ヒー豆)】
ホップ	0.1	0.06			0.1	アメリカ 【<0.025-0.0548(n=3)(米 国ホップ)】
その他のスパイス	5	5	○		0.02	カナダ [*] 0.65, 0.74, 0.47, 0.58, 1.99(\$), 1.12(#), 1.00, 1.36(#)(みかん果皮) <0.02, <0.02(みょうが) 0.47, 0.54(セージ) 0.31(#), 0.08(#), 2.26(#), 0.88(#)(あさつき) 【0.37-3.15(n=6)(米国か らしな)】 (チンゲンサイ参照)
その他のハーブ	5	2	○・申3		1.5	アメリカ
牛の筋肉	0.01	0.02			0.02	アメリカ
豚の筋肉	0.01	0.02			0.02	アメリカ
その他の陸棲哺乳類の筋肉	0.01	0.02			0.02	アメリカ
牛の脂肪	0.01	0.02			0.02	アメリカ
豚の脂肪	0.01	0.02			0.02	アメリカ
その他の陸棲哺乳類の脂肪	0.01	0.02			0.02	アメリカ
牛の肝臓	0.01	0.02			0.02	アメリカ
豚の肝臓	0.01	0.02			0.02	アメリカ
その他の陸棲哺乳類の肝臓	0.01	0.02			0.02	アメリカ
牛の腎臓	0.01	0.02			0.02	アメリカ
豚の腎臓	0.01	0.02			0.02	アメリカ
その他の陸棲哺乳類の腎臓	0.01	0.02			0.02	アメリカ
牛の食用部分	0.01	0.02			0.02	アメリカ
豚の食用部分	0.01	0.02			0.02	アメリカ
その他の陸棲哺乳類の食用部分	0.01	0.02			0.02	アメリカ
乳	0.01	0.01			0.02	アメリカ
鶏の筋肉		0.02			0.02	カナダ [*]
その他の家さんの筋肉		0.02			0.02	カナダ [*]
鶏の脂肪		0.02			0.02	カナダ [*]
その他の家さんの脂肪		0.02			0.02	カナダ [*]
鶏の肝臓		0.02			0.02	カナダ [*]
その他の家さんの肝臓		0.02			0.02	カナダ [*]
鶏の腎臓		0.02			0.02	カナダ [*]
その他の家さんの腎臓		0.02			0.02	カナダ [*]
鶏の食用部分		0.02			0.02	カナダ [*]
その他の家さんの食用部分		0.02			0.02	カナダ [*]
鶏の卵		0.02			0.02	カナダ [*]
その他の家さんの卵		0.02			0.02	カナダ [*]
魚介類						

平成17年11月29日厚生労働省告示第499号において新しく設定した基準値については、網をつけて示した。
(\$)これらの作物残留試験は、試験成績のばらつきを考慮し、この印をつけた残留値を基準値策定の根拠とした。
(#)これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

チアメトキサム推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品群	基準値案 (ppm)	暴露評価に 用いた数値 (ppm)	国民平均 TMDI	国民平均 推定一日 摂取量 EDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	高齢者 (65歳以上) 推定一日 摂取量 EDI	妊婦 TMDI	妊婦 推定一日 摂取量 EDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	幼小児 (1~6歳) 推定一日 摂取量 EDI
米(玄米)	0.3	0.04	55.5	7.4	56.6	7.6	41.9	5.6	29.3	3.9
小麦	0.02	● 0.02	2.3	2.3	1.7	1.7	2.5	2.5	1.6	1.6
大麦	0.3	● 0.3	1.8	1.8	1.1	1.1	0.1	0.1	0.0	0.0
とうもろこし	0.02	0.005	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
その他の穀類	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大豆	0.02	0.005	1.1	0.3	1.2	0.3	0.9	0.2	0.7	0.2
小豆類	0.05	0.01	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
えんどう	0.02	● 0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そら豆	0.02	● 0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の豆類	0.02	● 0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ばれいしょ	0.3	0.03	11.0	1.2	8.1	0.9	11.9	1.4	6.4	0.7
さといも類(やつがしらを含む)	0.5	0.04	5.8	0.5	8.7	0.7	4.0	0.3	2.9	0.2
かんしょ	0.03	0.007	0.5	0.1	0.5	0.1	0.4	0.1	0.5	0.1
こんにやくいも	0.1	0.02	1.3	0.3	1.3	0.3	1.1	0.2	0.6	0.1
てんさい	0.02	0.005	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.2	0.013	9.0	0.6	11.7	0.7	5.7	0.4	3.7	0.2
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	3	0.39	6.6	0.9	10.2	1.3	2.7	0.4	1.5	0.2
かぶ類の根	0.02	● 0.02	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
西洋わさび	0.02	● 0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
クレソン	3	● 3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
はくさい	2	● 2	58.8	58.8	63.4	63.4	43.8	43.8	20.6	20.6
キャベツ	2	0.37	45.6	8.4	39.8	7.4	45.8	8.5	19.6	3.6
芽キャベツ	2	● 2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
ケール	3.0	● 3.0	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
こまつな	5	1.74	21.5	7.5	29.5	10.2	8.0	2.8	10.0	3.5
きょうな	3	1.06	0.9	0.3	0.9	0.3	0.3	0.1	0.3	0.1
チンゲンサイ	5	1.80	7.0	2.5	9.5	3.4	5.0	1.8	1.5	0.5
カリフラワー	2	● 2	0.8	0.8	0.8	0.8	0.2	0.2	0.2	0.2
ブロッコリー	2	● 2	9.0	9.0	8.2	8.2	9.4	9.4	5.6	5.6
その他のあぶらな科野菜	5	● 5	10.5	10.5	15.5	15.5	1.0	1.0	1.5	1.5
ごぼう	0.02	● 0.02	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
サルシフィア	0.02	● 0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アーティチョーク	0.45	0.17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
チョコリ	3	● 3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
エンダイブ	3	● 3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
しゅんぎく	3	● 3	7.5	7.5	11.1	11.1	5.7	5.7	1.8	1.8

食品群	基準値案 (ppm)	暴露評価に 用いた数値 (ppm)	国民平均 TMDI	国民平均 推定一日 摂取量 EDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	高齢者 (65歳以上) 推定一日 摂取量 EDI	妊婦 TMDI	妊婦 推定一日 摂取量 EDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	幼小児 (1~6歳) 推定一日 摂取量 EDI
びわ	0.2	● 0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
もも	0.5	0.06	0.3	0.0	0.1	0.0	2.0	0.2	0.4	0.0
ネクタリン	0.5	● 0.5	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
アンズ (アブリコットを含む)	3	● 3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
スモモ (ブルーンを含む)	0.5	● 0.5	0.1	0.1	0.1	0.1	0.7	0.7	0.1	0.1
うめ	3	0.06	3.3	0.1	4.8	0.1	4.2	0.1	0.9	0.0
おうとう (チェリーを含む)	5	1.49	0.5	0.1	0.5	0.1	0.5	0.1	0.5	0.1
いちご	2	0.23	0.6	0.1	0.2	0.0	0.2	0.0	0.8	0.1
ラズベリー	0.35	0.06	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ブラックベリー	0.35	● 0.35	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ブルーベリー	0.2	0.06	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
クランベリー	0.02	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ハックルベリー	0.2	● 0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のベリー類果実	0.35	● 0.35	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ぶどう	2	0.74	11.6	4.3	7.6	2.8	3.2	1.2	8.8	3.3
かき	1	0.24	31.4	7.6	49.6	12.0	21.5	5.2	8.0	1.9
バナナ	0.7	0.24	8.8	3.0	12.4	4.2	6.1	2.0	7.9	2.7
グアバ	0.2	0.03	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
マンゴー	0.2	0.03	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の果実	2	0.32	7.8	1.2	3.4	0.5	2.8	0.4	11.8	1.9
綿実	0.1	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なたね	0.02	● 0.02	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1
ペカン	0.02	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
茶	15	5.56	45.0	16.7	64.5	23.9	52.5	19.5	21.0	7.8
コーヒー豆	0.05	0.02	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
ホップ	0.1	0.04	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のスパイス	5	0.99	0.5	0.1	0.5	0.1	0.5	0.1	0.5	0.1
その他のハーブ	5	● 5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
陸棲哺乳類の肉類	0.01	● 0.01	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.3	0.3
陸棲哺乳類の乳類	0.01	● 0.01	1.4	1.4	1.5	1.5	1.8	1.8	2.0	2.0
計			741.6	273.3	818.3	304.0	626.0	220.6	393.9	138.8
ADI比 (%)			77.3	28.5	83.9	31.2	62.5	22.0	138.5	48.8

●：個別の作物残留試験がないことから、暴露評価を行うにあたり基準値（案）の数値を用いた。なお、グループで基準値が設定されている作物については、根拠となった作物以外についてはTMDI試算を行った。

TMDI：理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

EDI：推定1日摂取量 (Estimated Daily Intake)

(参考)

これまでの経緯

平成12年	8月15日	初回農薬登録
平成16年	7月20日	農薬登録申請（れんこん、大豆、稲等に係る適用拡大申請）
平成16年	8月3日	厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成16年	8月5日	食品安全委員会（要請事項説明）
平成16年	8月18日	第15回農薬専門調査会
平成17年	4月13日	第28回農薬専門調査会
平成17年	11月29日	残留基準告示
平成17年	12月21日	農薬登録申請（だいこん、かんきつ、ミニトマト等に係る適用拡大申請）
平成18年	7月18日	厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成18年	7月20日	食品安全委員会（要請事項説明）
平成18年	10月4日	第5回農薬専門調査会総合評価第一部会
平成19年	7月9日	農薬登録申請（ほうれんそう、わけぎ、こんにゃく等）
平成19年	9月5日	第15回農薬専門調査会総合評価第一部会
平成20年	2月15日	第35回農薬専門調査会幹事会
平成20年	2月28日	食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表
平成20年	4月3日	食品安全委員会（報告）
平成20年	4月3日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成20年	9月18日	薬事・食品衛生審議会へ諮問
平成20年	10月24日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

●薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

青木 宙	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授
井上 松久	北里大学副学長
○大野 泰雄	国立医薬品食品衛生研究所副所長
尾崎 博	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
加藤 保博	財団法人残留農薬研究所理事
斉藤 貢一	星薬科大学薬品分析化学教室准教授
佐々木 久美子	元国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長
志賀 正和	元農業技術研究機構中央農業総合研究センター虫害防除部長
豊田 正武	実践女子大学生活科学部生活基礎化学研究室教授
松田 りえ子	国立医薬品食品衛生研究所食品部部長
山内 明子	日本生活協同組合連合会組織推進本部 本部長
山添 康	東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座薬物動態学分野教授
吉池 信男	青森県立保健大学健康科学部栄養学科教授
由田 克士	国立健康・栄養研究所栄養疫学プログラム国民健康・栄養調査プロジェクトリーダー
鱈淵 英機	大阪市立大学大学院医学研究科都市環境病理学教授

(○：部会長)